

令和7年度 第3回 都筑区地域福祉保健計画推進委員会 次第

日時：令和7年11月28日（金）
午前10時から12時まで
場所：都筑区役所 6階大会議室

【開会】

【報告事項】

- 1 「つづき あい基金」について 資料1
- 2 第5期都筑区地域福祉保健計画 地区別計画進捗について 資料2

【議題】

- 1 第5期都筑区地域福祉保健計画 区計画策定に向けて 資料3～6
 - (1) 『第5期都筑区地域福祉保健計画素案の
区民意見募集結果について』（説明）
 - (2) 意見交換
 - ▶計画の推進主体の表現について(意見交換テーマ①)
 - ▶私たちの目指すまちのイラストについて（意見交換テーマ②）
 - ▶その他、意見募集全体を通して気になる箇所（意見交換テーマ③）

【講評】

【事務連絡】

【閉会】

次回推進委員会の予定：
令和8年11月頃

令和7年度「つづき あいパネル展」および

第5期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」完成報告会完成報告会

パネル展 令和8年2/18(水)13時～2/27(金)10時 @区民ホール
報告会 令和8年2/19(木)15時～16時 @都筑公会堂



都筑区地域福祉保健計画推進委員会名簿(50音順、敬称略)

令和7年11月1日時点

	役員氏名	団体名及び役員肩書
	1 大野 和子	都筑区保健活動推進員会 会長
	2 河野 伸二郎	都筑区歯科医師会 会長
	3 木村 博子	都筑区主任児童委員連絡会 代表
	4 桑原 正盈	都筑区老人クラブ連合会 会長
	5 小泉 雅二	都筑区社会福祉協議会 ボランティア・市民活動等分科会 会長
	6 小嶋 貴之	都筑区中学校長地域福祉保健関係担当 横浜市立中川中学校 校長
	7 小林 達夫	都筑区民生委員児童委員協議会 会長
	8 小林 雅子	都筑区医師会 理事
	9 坂田 信子	都筑区障害児・者福祉団体連絡協議会 会長
	10 佐藤 洋子	都筑区子育て支援センターポポラ 運営法人理事長
	11 志田 政明	青少年指導員連絡協議会 会長
	12 高橋 美都子	都筑区小学校長地域福祉保健関係担当 横浜市立茅ヶ崎小学校 校長
	13 林田 育美	都筑多文化・青少年交流プラザ(つづきMYプラザ) 館長
	14 堀内 哲也	つづき地域活動ホームくさぶえ 所長
	15 堀越 淳子	都筑区食生活等改善推進員会 会長
	16 村田 輝雄	都筑区社会福祉協議会 会長
	17 吉野 富雄	都筑区連合町内会自治会 会長
経験者 学識者	18 名和田 是彦	法政大学法学部 教授

令和7年度 つづき あい基金 配分団体一覧【前期】

資料1

1.地域福祉保健活動を推進するための活動方法や調査研究、研修、検討にかかる費用→【申請なし】

2.区計画及び地区別計画の推進に関する広報紙やチラシの発行→【申請 2件】

No.	新規 ／ 継続	団体名 代表者名	購入予定品名 購入品の用途	助成申請 金額	事業対象者	他団体との 連携	区計画 もしくは 地区別計画	事業の目的
1	継続	茅ヶ崎南MGCRS 連合自治会 石原 久嗣	5,500部 年5回予定	20,000円	子ども・青少年 高齢者	地区社協 MGCRSつながりづくり、 シニアクラブ	地区別計画 茅ヶ崎南MGCRS 地区	地域における福祉保健活動の広報・周知不足を解消するために広報を発行する。（令和3～6年度も発行）今年度は「地域活動だより」に加え、連合自治会が発行している「MGCRS通信」にも計画のことを掲載しているため追加した。
2	新規	渋沢地区 社会福祉協議会 河村 康司	4,000部 年2回予定	20,000円	子ども・青少年 高齢者 その他	自治会町内会	地区別計画 渋沢地区	幅広い世代に情報伝達を行うため、渋沢地区連合自治会ホームページをリニューアルし、LINEやInstagram等のSNSを導入する。チラシやポスターなどに2次元コードをつけて配布し、周知を図る。

3.デジタル媒体を活用し、地域福祉保健活動を推進するための備品整備にかかる費用やホームページ、SNS等による周知・啓発に係る費用→【申請なし】

4. サロンなどの地域福祉保健活動の活動費(新規事業に限る)→【申請なし】

【前期】助成額合計 40,000円

第 5 期都筑区地域福祉保健計画地区別計画の進捗について

1 紙面レイアウトについて

別紙「レイアウトサンプル」参照

- ① A 4 版 4 ページ
- ② 表紙：「写真(一部イラスト)」「地区別計画とは」「地区の概況」
中面：「地図」「行事等案内」「写真」等
裏面：「第 4 期の取り組み」「第 5 期計画の目標と取り組み」

2 第 5 期計画の傾向(まとめ)

(1) 目標となった上位キーワード

「災害の備え」「安心して暮らせるまち」「多くの人が地域に関わりやすく」
「誰もが参加できる行事・活動」「健康寿命を延ばす」「顔の見える関係づくり」

(2) 目標となった新しいキーワード

- ① 「災害に備え」⇒防災意識の強化
- ② 「みんなが主役のまちづくり」⇒参加型の地域づくり
- ③ 「心と身体の健康づくり」⇒健康テーマの深化
- ④ 「声かけあえる関係づくり」⇒孤立防止等の重点化

(3) 地区別計画の取り組みの傾向のまとめ

- ① 「災害に対する備え」が強調され、より具体的な防災行動が重視
例：防災訓練、避難場所や備品の整備、備えを促す、連携体制づくり
- ② 「いろいろな世代や立場」「みんなが主役」など、参加型・多様性に着目
例：子ども、若い世代、外国人等幅広い区民が参加できる取組
- ③ 「心と身体の健康」など、より包括的な健康志向(身体の健康⇒心と身体の健康)
例：検診の受診、ポッチャ、緑道を歩く
- ④ 「顔の見える関係」⇒「声をかけあえる関係」など、関係の深化、見守り強化
- ⑤ 様々な媒体での情報発信
例：デジタル・アナログの併用、ホームページ、デジタルツール等媒体の多様化
- ⑥ 様々な人に気軽に関わってもらえるよう、活動を周知する
例：「自治会の周知」「気軽に手伝う」「働く世代でも参加できる仕組み」

3 今後のスケジュール

令和 7 年 1 1 月 デザイン・印刷業者に入稿

初稿受け取り、以後、数回校正

令和 8 年 2 月 第 5 期都筑区地域福祉保健計画完成報告会(2/19)で配付

令和7年度 第5期都筑区地域福祉保健計画(区計画) 素案の区民意見募集結果について

都筑区役所 福祉保健課



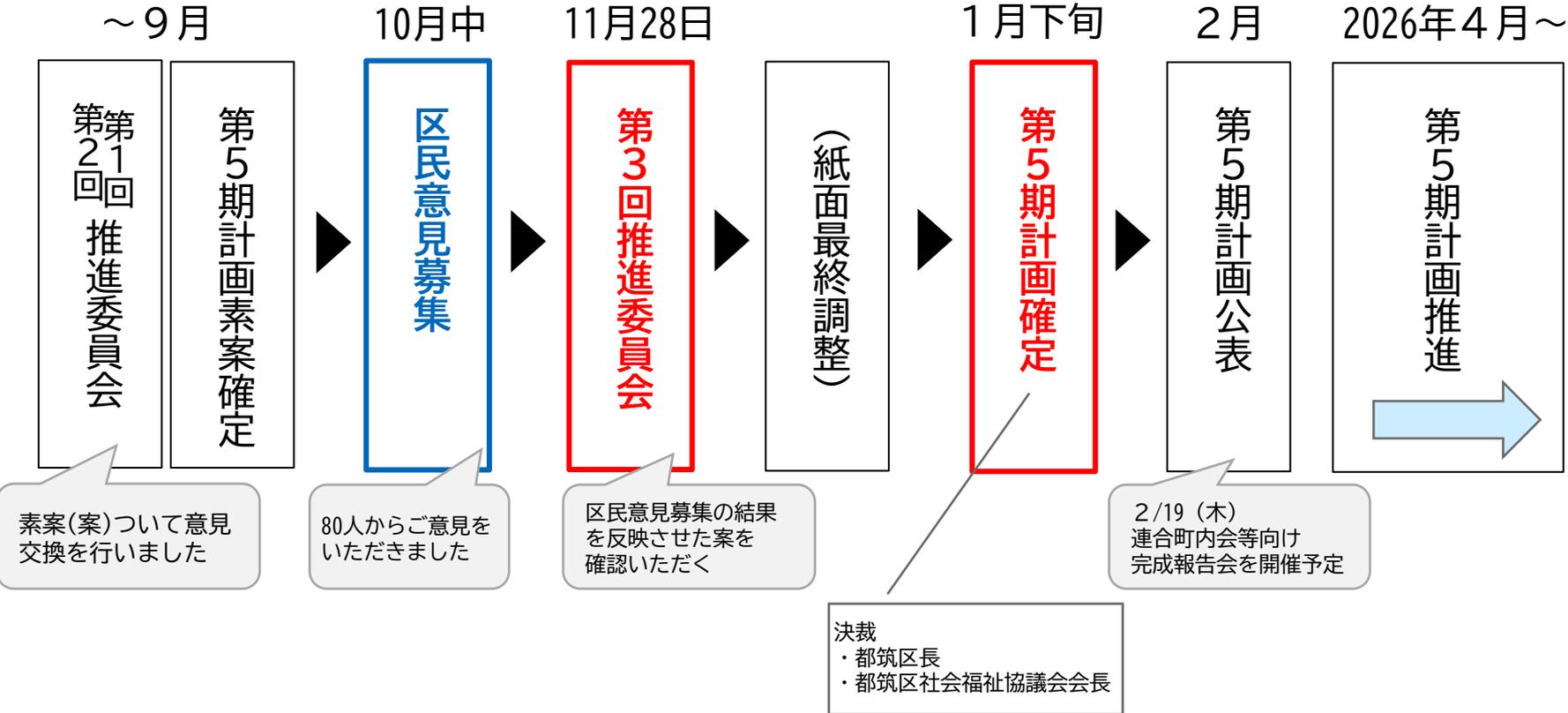
2025年11月28日 都筑区地域福祉保健計画推進委員会用

本日のご説明

- 1 計画策定に向けた今後のスケジュール
- 2 区民意見募集の結果
- 3 子どもへのヒアリングや学校への授業
- 4 今後に向けて
- 5 意見交換

1 計画策定に向けた今後のスケジュール

(2) 今後の策定スケジュール



1 計画策定に向けた今後のスケジュール

(3) 推進委員会での協議事項

①第1回推進委員会（7月3日）

素案(案)の構成や区民意見募集の方法について意見交換



②第2回推進委員会（書面開催）

第1回推進委員会の意見を反映した素案(案)を送付、ご確認いただく



【素案確定】

素案について区民意見募集（10/1～10/31）



③第3回推進委員会（11月28日）

区民意見募集の結果をふまえた意見交換

本日です

2 区民意見募集の結果

区民意見募集の結果について、以下のとおりご説明します。

- (1) 結果の概要
- (2) 計画への意見（反映点など）
- (3) 計画推進に関する意見やその他意見
- (4) まとめ

ここからは、区民意見募集の結果についてご説明します。



2 区民意見募集の結果

(1) 結果概要

○概要

計画の素案に対して、都筑区民や在勤者等に対し、区民意見募集を行いました。

○募集期間

2025年10月1日～10月31日まで

※一部団体へは都合上先行してお伝えしました。

○募集方法

インターネット回答、電子メール、郵便（専用はがきや封書）、FAX

○素案の種類（作成した媒体）

- ・全体版（36ページ）、概要版（8ページ）、やさしい概要版（8ページ）、英語版（8ページ）※データのみ

2 区民意見募集の結果

(1) 結果概要

○80人、100件のご意見をいただきました。

- ・ 計画への意見 → 26件
- ・ 計画推進やその他意見 → 74件



1人の回答に複数の要素が含まれている場合は、分割して数えています。(=件)

【参考】

- ・ 都筑区 第4期 23人 (23件)
- ・ 横浜市 第5期 97人 (170件)

○意見の分類

本日特に意見をお伺いしたい部分

今後の推進で検討していきます。

・ 計画への意見	・ 計画推進やその他に関する意見
総意見数 26 件	総意見数 74件
・ 提案件数 15件	・ <u>計画に含まれているもの</u> 46件
└ <u>計画に反映した件数</u> 13件	・ <u>今後の検討とするもの</u> 21件
・ その他意見 (感想等) 11件	・ その他の意見 7件

2 区民意見募集の結果

(1) 結果概要

①年齢別集計

年齢層	人数
18歳未満	6
18歳～29歳	6
30歳～39歳	11
40歳～49歳	13
50歳～64歳	23
65歳～74歳	14
75歳以上	6
不明	1
総計	80

②回答手段別集計

回答手段	人数
電子	57
はがき	22
メール	1
FAX	0
総計	80

③回答先別集計

回答先別	人数
通常版回答フォーム or通常版専用はがき	42
やさしい回答フォーム orやさしい概要版専用はがき	38
総計	80

④意見募集を知った機会別集計※

意見募集を知った機会	区分	回答数
連絡会や会議	連絡会等	10
回覧板	回覧板	9
知人からの紹介	紹介	4
都筑区役所のモニターや配架	施設・拠点	10
ケアプラザで知った	施設・拠点	6
区社会福祉協議会で知った	施設・拠点	2
横浜市のLINE	HP・SNS	4
都筑区役所のホームページ	HP・SNS	4
都筑区の公式X	HP・SNS	3
その他		14
総計		66

※インターネット回答のみ、複数回答あり

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

2 区民意見募集の結果

(1) 結果概要

○年齢別×回答手段

年齢層	電子	はがき	メール	総計
18歳未満	2	4		6
18歳～29歳	5	1		6
30歳～39歳	11			11
40歳～49歳	12	1		13
50歳～64歳	18	5		23
65歳～74歳	8	6		14
75歳以上	1	5		6
不明			1	1
総計	57	22	1	80



○年齢別×意見募集を知った機会※

※インターネット回答のみ、複数回答あり

	連絡会や会議	回覧板	知人からの紹介	都筑区役所の モニターや配架	ケアプラザで 知った	区社会福祉 協議会で知った	横浜市のLINE	都筑区役所の ホームページ	都筑区の公式X	その他	総計
18歳未満					1					1	2
18歳～29歳		1	1	1	3						6
30歳～39歳		1	1	4		1	1	1		2	11
40歳～49歳	1	1		3		1	1			5	12
50歳～64歳	4	6	2	2	1		1	2	2	4	24
65歳～74歳	5				1		1	1	1	1	10
75歳以上										1	1
総計	10	9	4	10	6	2	4	4	3	14	66

2 区民意見募集の結果

(1) 結果概要

- 80人、100件のご意見をいただき、「意見の方向性」や「情報の届き方」「関心の傾向」を知れる結果となった。
- 多様な層の区民のみなさまより意見をいただけた。
 - ・幅広い年代から回答があった。（ボリュームゾーンは50歳～64歳）
 - ・インターネット回答(57人)と、はがき(22人)の両方で回答があった。
 - ・回覧板、区HP、区公式SNS、連絡会等、様々な場所で情報を届けることができた。
- 課題：若者世代（～29歳）への情報提供
 - ・回覧板や区公式SNS等から情報を得ていない方への発信は今後課題。
 - ・中学生へは一部学校にご協力いただき、ヒアリング等を行えた。

2 区民意見募集の結果

(2) 計画への意見（反映点など）

・意見交換テーマ①

計画の「推進主体の表現」に関するご意見をいただきました。

・計画全体として**主語**が分かりにくい。

・『区役所・区社協・ケアプラザの取組』となっているが、役所の計画ではなく、**区民全体の計画**ではないのか

・「取組」の表記について、『区役所・区社協・地域ケアプラザ』だけではなく、その他の機関・団体も、様々な人が協働して**取り組む**ことだと思います。

・計画を誰が実践するかが問題。少子高齢化する中で**市区職員や区社協職員の皆さん**だけでは難しいと思います。

2 区民意見募集の結果

(2) 計画への意見（反映点など）

・意見交換テーマ①

変更点①「地域のみなさんと取り組む」ことが伝わる様に修正します。

文言を追加

変更前)区役所・区社協・
地域ケアプラザの取組



変更後)区役所・区社協・
地域ケアプラザが、
地域の皆さんと取り組
んでいくこと

※デザインや配置は
今後調整予定

3 目指す姿・推進に向けた具体的な取組

目指す姿「であい」

であいが広がり、つながる機会がたくさんある

◆背景や課題

- 地域で活動する人の固定化や減少により、負担が増加し、活動の継続が難しくなっている場合があります。
- また、価値観やつながりの多様化で、身近な地域での人と人とのつながりが希薄化しているとの声も聞かれます。
- しかし、困りごとがあっても、自分や家族だけでは解決できない場合があります。
- 災害等の緊急時はもとより、日常生活の中でも、共助によるささえあいが必要です。

◆取組の方向性

- 地域におけるささえあいの活動が今後も継続できるよう、地域で活動する関係組織・団体の支援に取り組みます。
- ささえあいを進める第一歩として、多くの人が身近な地域について興味や関心をもち、地域活動へ気軽に参加できる環境づくりを進めます。
- 地域活動を行うにあたって、価値観や困りごとの変化を捉え、多様な視点を持って推進します。

<区役所・区社協・地域ケアプラザが地域の皆さんと取り組んでいくこと>

- ① 多くの人が気軽に参加できるきっかけづくりを進めます。
- ② 地域で活動する団体や住民同士の交流の場をつくります。
- ③ 地域の身近なささえあい活動を進めている団体を支援します。
- ④ 多くの人や団体と地域がつながりをもてるよう、コーディネートに力を入れます。
- ⑤ 地域活動を応援する法人・商店・企業等との連携を進めます。
- ⑥ 多くの人に情報が伝わるよう、工夫して発信します。

あなたが出来るな
ことは何だろう？



地域を良くする
ために、あなた
の方が必要!

項目を追加

「あなたが出来るな
ことは何だろう？」

【こんな意見もありました】

地域のために自分も何かしてみよう！と思えたのですが、「でもなにをすれば？」と躓いてしまいました。自分にできそうなことのヒントを頂ければ行動に移しやすい気がします。

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

2 区民意見募集の結果

(2) 計画への意見（反映点など）

変更点②「計画の対象」の説明をより詳しく記載します。

文言を変更

変更後)「都筑区で生活している人、関わるすべての人が対象です。それぞれの立場でできることを実践しながら、みんなで進めていきます。」

・意見交換テーマ①

都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」の基本的な考え方

1 都筑区の特徴

都筑区には「住む」「働く」「防げる」「交流する」等、多様な魅力があります。現在(令和7年1月1日時点)は、平均年齢が市内で3番目に若い区ですが、今後は急激に高齢化が進むことが推測され、全世代の健康づくりや地域・社会参加を通じたつながりがますます重要となっています。

①人口 現在の人口は約21万4千人。 18歳以下(18歳未満)人口は約4万5千人(2024年1月1日現在)です。高齢化率(65歳以上)は約25%です。	②世帯 1世帯あたりの人数が多い。 1.86人(2024年1月1日現在)です。令和7年度は、出生率(出生数)が減少する見込みです。	③人の動き 0～14歳、30歳以上の転入者割合が市平均と比べて多い。 (2024年1月1日現在)
④健康 平均寿命、平均自立期間が長い。 平均寿命(2024年1月1日現在)は、男性78.8歳、女性84.8歳です。	⑤経済活動 農業、工業、商業が盛ん。 農業戸数(2024年1月1日現在)は約1,000戸、製造業(2024年1月1日現在)は約1,000社、商業(2024年1月1日現在)は約1,000社です。	⑥多文化共生 84か国の方が生活している。 (2024年4月現在)

2 計画について

都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」とは？

誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指し、地域のみならず、事業者、公的機関(区役所・区社会福祉協議会(以下、区社協)、地域ケアプラザ等)が、地域の課題解決に向けて協働して策定・推進する計画です。

都筑区では、地域のみならずに親しまれるよう、計画の愛称を「つづき あい」としています。

誰が対象の計画？

都筑区で生活するすべての人が対象です。

どうして計画が必要なの？

様々な困りごとを抱えながら暮らす人も、自立している人がいるかもしれませんが、身近な地域での「であい」を広げることが、人と人とのつながりをつくるきっかけになります。また、支える側・支えられる側と区別することなく「さきえあい」、多様な視点を「わかちあう」ことが、一人ひとりのより良い暮らしにつながります。

いつまでも住み続けたい都筑区の実現に向けて、それぞれができることを考え、具体的な行動を実施するために計画が大切です。

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

2 区民意見募集の結果

(2) 計画への意見（反映点など）

計画の「イラスト」に関するご意見もいただきました。

・「ささえあい」のイラストが女性2人である。このささえあいのイメージに、男性も同じように登場できるように、世の中が変わらなければならないと思います。

・訪問するご家庭は、高齢者だけではない。絵をファミリーにしてほしい。

(中学生のヒアリング)
・絵があるので、何を伝えたいのか、わかりやすい。



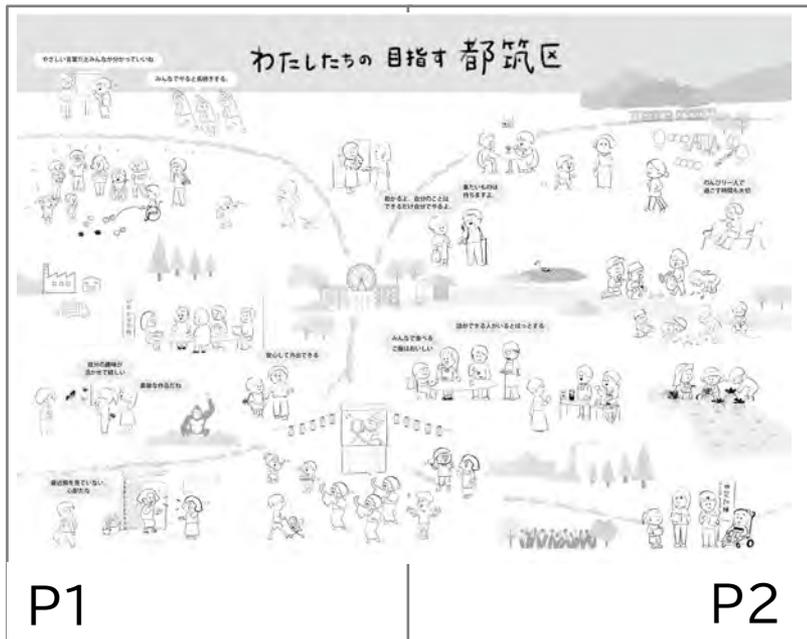
2 区民意見募集の結果

(2) 計画への意見（反映点など）

・意見交換テーマ②

計画の「イラスト」に関するご意見

→いただいた意見は、他に掲載するイラスト（主に「私たちの目指すまち」）へ反映し、多様な考えや価値観があることが伝わるようにします。



私たちの目指すまち ※【イメージ】

※本冊子・概要版共に、冊子の冒頭に、「目指す都筑区の姿（多様な人が都筑区で自分らしく過ごしている様子）」を絵で表現する予定です。

- ・ 目指す都筑区の像を視覚的に分かりやすく表現したい。
- ・ 冊子を手にする人が「自分だったら」とイメージしやすいように、様々な立場や背景の人を表現したい。

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

本冊子・概要版

2 区民意見募集の結果

(2) 計画への意見（反映点など）

その他にも意見をいただきました。

ご意見	対応方針
前計画はSDGsの考え方が表現されていたが、その評価や計画の振り返りが無い。	SDGsについて、説明を掲載します。
第5期計画という言葉が唐突に感じる。	概要版を見てもわかりやすいように「今回の計画の基本理念と目指す姿」へ変更します。
基本理念に「自分らしく」を健やかにの前に入れてください。分かち合いの目標で多様性が入ったので理念にいれるべきではないか。	基本理念については、「誰もが」という文言に、「自分らしく」のニュアンスを含めて表現をしています。
紙面がやさしすぎて盛り上がり（青少年の関心を引くような）に欠けるので、1面くらいは雑誌のような表現で、ここ数年注目の話題があってもいいと思いました。	若い世代を含め、多様な方の関心を引くようなデザインや内容の工夫、啓発方法も検討していきます。

2 区民意見募集の結果

(2) 計画への意見（反映点など）

その他にも意見をいただきました。②

・優しい表現で読みやすかったです。（やさしい概要版）

・これまで見た行政の資料の中でも特にわかりやすかったです。

・読みやすく興味を持てる内容でした。

・基本理念、とても素晴らしいと思いました。

2 区民意見募集の結果

(3) 推進に関することやその他ご意見

- ・74件のご意見をいただきました。
- ・キーワードごとに分類分けをすると以下の通りとなります。

高齢者

障害児者

健康づくり

子ども・子育て

困窮

若者

多世代・全世代

つながり・交流

担い手・参加

相談先・居場所の充実

ささえあい・気にかかけあい

多様性

情報

多文化共生

安全・防犯・交通

区の特徴を活用

サポート・サービスの充実

その他

2 区民意見募集の結果

(3) 推進に関することやその他ご意見

・ 回答年齢層×キーワード※

- ・ つながりや交流、相談先・居場所の充実へは全世代で関心がある。
 - ・ 健康づくりは、50歳～関心がある。
- 若年層への関心を高めていくことが重要。

	18歳未満	18歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～64歳	65歳～74歳	75歳以上	不明	総計
つながり・交流	4	2	3	4	3	5	2		23
担い手・参加			2	2	4	2	2		12
ささえあい・気かけあい		1	2		1	1	2		7
相談先・居場所の充実		2	2	3	5	2			14
多様性				1	2	3	1		7
多文化共生					1				1
情報			1	2	2	1	1		7
高齢者						1	1		2
子ども・子育て			2	3	2			1	8
障害児者			2	2					4
困窮					2				2
健康づくり					1	4			5
サポート・サービスの充実			1	1				1	3
多世代・全世代		2	1	1	1	1			6
安全・防犯・交通		1	1	2					4
区の特徴を活用			1	1	3	3			8
その他	2	2	2	2	8	1	1		18
総計	6	10	20	24	35	24	10	2	131

※意見が複数に分類される場合は、複数集計しています

2 区民意見募集の結果

(3) 推進に関することやその他ご意見

その他意見もいただきました。（つながりや交流、ささえあいに関すること）

年齢や場所など垣根や排除は要らない。
誰でも受け入れる寛容な土壌が大切。だれでも集まれる場がたくさんほしい。受け皿やネットワーク同士が交流すると人がどんどんつながる。

普段から、最近どうかな？変わったことないかな？と気にかけて合うだけでよい。
声をかけ合って安心してもらおう。

個人の時代なので、子供を含む各世代が自然な近所付き合いができる環境を残していくのは大切だと思います。趣味のサークルや勉強会への参加などは義務的な色無く、世代を超えて人と繋がる機会を広げる契機になります。

2 区民意見募集の結果

(3) 推進に関することやその他ご意見

その他意見もいただきました。（居場所や子どもに関すること）

発達障害児や、不登校児の保護者たちと座談会や情報交換の場が身近な地域にあれば、普段知り合う機会がないので、悩むを相談したり、様々な情報をもらえたりと、助かる保護者が多いと思います。

多様な悩み相談、気持ちを吐き出す場所があると良いと思います。解決に至らなくても話す事により気付きを得られる事も沢山あります。

子どもに発達障害があり、コミュニケーションの難しさを感じています。学校以外でお友達ともっと関われる場所がもっとあるとありがたいです。

2 区民意見募集の結果

(3) 推進に関することやその他ご意見

その他意見もいただきました。(情報に関すること)

・自分で出向くことができない、ネットを見ることができない、また、見聞きした情報をどう利用したら良いかわからないなどといった方に、どうすればより届きやすく、利用しやすくなるかを検討して欲しい

・若い世代に向けて、SNSやアプリを活用した情報発信・参加促進で情報を一元化することで、参加のハードルを下げるのではないかとおもいます。

・子ども会の役員をしていますが、他の子ども会では負担軽減の為にどのような取り組みをしているのか、知る機会があったら良いと思っています。簡素化する為に工夫している事をオンラインで意見交換できる場が欲しいと思っています。

2 区民意見募集の結果

(3) 推進に関することやその他ご意見

その他意見もいただきました。（経験にもとづいた意見）

・知り合いがいない私に民生さんが訪問にきて、サロンに来て、と声をかけてくれた。1回声をかけられても知らない人の所に行くのは勇気が要る。でも2回も声かけてくれたから安心して参加することができている。何かお困りですか？とも聞いてくれた。嬉しかった。

・赤ちゃん会で人と話せる場所があって良かった。そこで知り合った人と、子どもが小学生の今も繋がっている。そういう場があることが知られていない。

・あまり地域に目を向けてこなかったのですが、子育てをしている中で色々な方に支えられていることを実感しました。困っているお子さんやそのご家庭など、できることがあれば手を差し伸べたいと思います。

2 区民意見募集の結果

(4) まとめ

○80人、100件のご意見をいただきました。

- ・ 計画への意見 ➡ 26件
- ・ 計画推進やその他意見 ➡ 74件

○「計画へのご意見（総提案数15件）」について
提案15件のうち、**13件を計画へ反映**する予定です。

○「計画推進にかかる意見等（74件）」について
いただいた考え方を大切に、**今後5年間の推進に活かして**いきます。
また、意見募集で得られたデータや傾向も参考にし、
啓発手法や周知の工夫も検討していきます。

3 子どもへのヒアリングや学校の授業 区民意見募集とは別に…子どもの視点も大切にしました

<茅ヶ崎中学校3年生8クラス>

テーマ：『地域福祉の視点』からより良い暮らしを考える

感想や意見：

- ・自分達の意見で地域を変えたり、改善できたりすると考えたことがなかったけど、今回の授業のように、自分達の意見を反映できる場があったとても嬉しかった。これからもこのような活動を広げて欲しい。
- ・今まで地域のことはまったく考えていなかった。
- ・福祉委員になって面倒だと思っていたけど、少し誇りを持てるようになった。
- ・地域の取組はどんなことをしているか気になった。



3 子どもへのヒアリングや学校の授業 区民意見募集とは別に…子どもの視点も大切にしました②

<勝田小学校5年生2クラス>

テーマ：『地域福祉の視点』からより良い暮らしを考える
自分が周りの人のためにできること：

- ・挨拶をする。
- ・相手の気持ちを考えて支える。

<中川中学校生徒会6名>

テーマ：『素案について』

感想や意見：

- ・地域の情報はインターネットには掲載されていないため、電柱や掲示板を見ている。情報が自分達には届かない。
- ・イラストが身近で分かりやすい。
- ・小学校の時は総合の授業でまちを知る機会があったが、中学校にあがるとまちを知る機会がなくなる。もっと知りたい。

いただいたご意見は
推進に活かしていきます。



4 今後に向けて

- ①本日を含め、今まで推進委員の皆様からいただいたご意見や、区民意見募集の結果を参考にし、**計画の策定**を行います。
2026年2月公表予定
- ②今後5年間の**計画の推進**や、**啓発手法**についても更に力を入れて取り組みます。

次回推進委員会 来年 11月予定
議題(予定)：推進の取組や啓発について

5 本日の意見交換について

委員のみなさま、次の視点でご意見をお聞かせください

▶推進主体(区役所・区社協・ケアプラザ以外)の表現について

- ・ 意図が伝わる表現になっているか

▶私たちの目指すまちのイラストについて

- ・ 気になる箇所等

▶全体(自由意見)

- ・ 意見募集全体を通して気になる箇所(検討や反映した方が良い箇所)
- ・ 子どもへの啓発等について



資料 4 は省略

■意見交換シート

今回の推進委員会では、次の項目について意見交換を行います。

いずれかのテーマでご意見をお伺いしますので、資料をご参照のうえ、可能な範囲であらかじめご意見をお考えのうえでご参加いただけますと幸いです。

<p>説明</p>	<p>■計画の推進主体の表現について</p> <p>現在の素案では「区役所、区社協、地域ケアプラザの取組」と記載していますが、区民意見募集の中で、「この3者だけで取り組むものではなく、地域の多様な団体や関係者と協働して進めるものであることを、より明確に表現すべきではないか」との意見が複数寄せられました。</p> <p>ご意見をふまえて、事務局としての案を考えました(資料3参照)。様々な立場の方にとって分かりやすく、意図が伝わる表現になっているか、ご意見をいただきたいです。</p>	<p>■全体(自由意見)</p> <p>意見募集全体を通して気になる箇所(検討や反映をした方が良いと考えられる箇所等)や感想がありましたら教えてください。</p>	<p>■私たちの目指すまちのイラストについて</p> <p>本計画では、目指す都筑区の姿を分かりやすく伝えるため、「わたしたちの目指すまち」のイラストを掲載します。</p> <p>冊子を手にとった人が「自分ごと」としてイメージできるよう工夫したいと考えており、より効果的な表現に向けて、イラスト案をふまえて皆さんのご意見を教えてください。</p> <p>※目指すまちのイラストは当日配布いたします</p>
<p>記入欄</p>			<p>当日ご記入ください</p>

本用紙は、策定の参考とさせていただきたいため、記載されましたら差し支えなければ委員会終了後に事務局でお預かりさせていただきますと幸いです。(メモのような記載でも構いません。)

第5期 都筑区地域福祉保健計画

計画期間:2026年度(令和8年度)~2030年度(令和12年度)

しづきあい

横浜市都筑区役所

社会福祉法人 横浜市都筑区社会福祉協議会

都筑区内地域ケアプラザ(加賀原、葛が谷、新栄、都田、中川、東山田)

概要版、やさしい概要版、英語版(English ver.)もあります



第5期都筑区地域福祉保健計画策定にあたって

都筑区長コメント(350字~400字程度)
調整中



都筑区社会福祉協議会会長コメント(350字~400字程度)
調整中

目次

わたしたちのめざすまち	1
1章 都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」とは	3
1 都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」とは.....	3
2 計画の対象者	3
3 「つづき あい」策定の趣旨	3
4 計画の構成	4
5 計画期間.....	4
6 SDGs(持続可能な開発目標)の視点.....	4
第2章 第5期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」の基本的な考え方	6
1 都筑区の特徴	6
2 第4期計画の振り返り.....	7
第3章 第5期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」区計画	9
1 計画の全体像	9
2 第5期計画の考え方.....	11
3 目指す姿・推進に向けた具体的な取組	13
4章 区計画の推進と振り返り	19
1 推進.....	19
2 進捗状況の確認・振り返り	19
第5章 地区別計画の推進と振り返り	23
1 地区別計画とは.....	23
2 地区別計画の圏域	23
3 地域活動が、暮らしやすいまちにつながるしくみ	24
4 計画の循環.....	25
5 計画策定の経過	26
6 地区別計画のサポート体制	26
第6章 計画策定の経過と背景	27
1 統計データ.....	27
2 関係者・関係団体へのヒアリング.....	32
3 都筑区地域福祉保健計画推進委員会	33
4 都筑区内15地区での話し合い(地域懇談会等)で出た意見.....	33
5 区民意見募集.....	33
参考	34

わたしたちの目

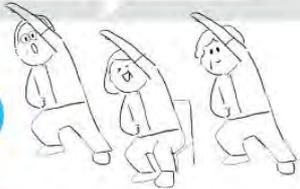
やさしい言葉だとみんなが分かっているね



7

みんなでやると長続きする。

20



5



助か
でき

1



4



16



安心して外出できる

自分の趣味が
活かせて嬉しい

13

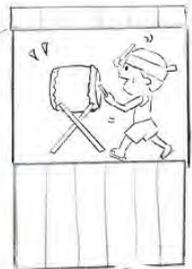


素敵な作品だね

8



3



最近顔を見ていない。
心配だな

18



19



目指す 都筑区

※印刷時、番号は入りません

12



重たいものは
持ちますよ。

かるよ。自分のことは
できるだけ自分でやるよ。

9



のんびり一人で
過ごす時間も大切

17



15



2



話ができる人がいるとほっとする

みんなで食べる
ご飯はおいしい

11



14



6



10



第1章 都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」について

1 都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」とは

誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域を目指し、地域の皆さま、事業者、公的機関（区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等）が、地域の課題解決に向けて協働して策定・推進する計画です。

都筑区では、地域の皆さまに親しまれるよう、計画の愛称を「つづき あい」としています。

2 計画の対象者

都筑区で生活している人、関わるすべての人が対象です。

それぞれの立場でできることを実践しながら、みんなで進めていきます。



3 「つづき あい」策定の趣旨

計画の策定・推進を通じて、地域の皆さまと、事業者、公的機関（区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等）が都筑区の現状と課題を明らかにするとともに、より良いまちづくりに向けた目標を共有します。そうすることで、地域に関わる関係者や団体が同じ方向を向き、地域の課題解決に取り組むことができます。

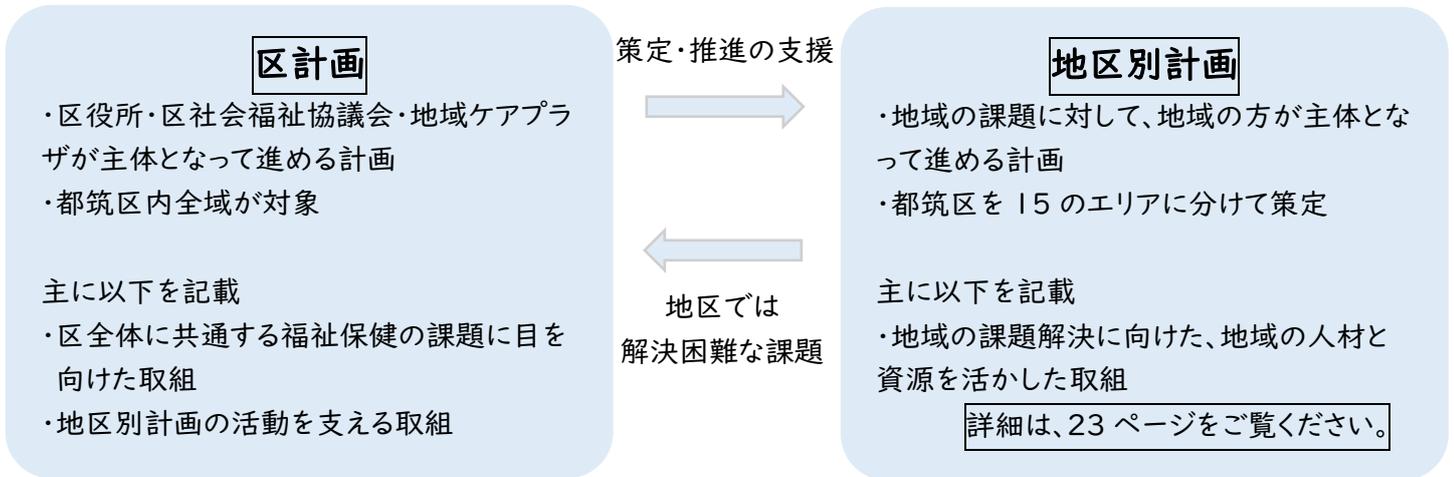
- ・地域福祉保健の現状や課題を明らかにする「〇〇で困っている人が増えているんだね」
- ・より良い地域づくりに向けた目標や取組を共有する「みんなで同じ方向に向かっていこう」
- ・強化したい課題や不足している取組を検討・実施する「どうしたらこの課題を解決できるかな」



立場や団体によって見えている状況は違うけど、
「地域をより良く」という想いは共通だね。

4 計画の構成

都筑区地域福祉保健計画は、「区計画」及び「地区別計画」で構成されています。



・社会福祉法第107条に、「市町村地域福祉計画」の策定及び公表が規定されています。

(詳細は34ページ参照)

・横浜市地域福祉保健計画については、横浜市健康福祉局のホームページをご参照ください。

(<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryō-fukushi/fukushi-kaigo/chiikifukushi/hokenkeikaku/chifuku-keikaku-5/shikeikaku-5-pu.html>)



5 計画期間

2026年度(令和8年度)から2030年度(令和12年度)までの5年間です。

2006年度～ 2010年度	2011年度～ 2015年度	2016年度～ 2020年度	2021年度～ 2025年度	2026年度～ 2030年度
第1期 都筑区 地域福祉保健計画	第2期 都筑区 地域福祉保健計画	第3期 都筑区 地域福祉保健計画	第4期 都筑区 地域福祉保健計画 (以下、第4期計画 という)	第5期 都筑区 地域福祉保健計画 (以下、第5期計画 という)

6 SDGs(持続可能な開発目標)の視点

この計画は、誰一人取り残さない社会の実現をめざし、SDGsの視点を取り入れています。地域の課題を世界の目標とつなげ、持続可能な地域づくりを進めます。本計画は主に、SDGsの以下の目標に関連しています。



各機関の機能

◆区役所

文章調整中

◆都筑区社会福祉協議会（以下、区社協）

社会福祉法で「地域福祉の推進を図る」ことを目的に組織された、地域の住民や団体・施設が会員として加入している民間の福祉団体です。区社協の目的は、福祉のまちづくりを目指して地域福祉活動を進めることであるため、「自主性」と「公共性」という性格を持っています。区社協は、地域の福祉課題をみんなの課題とし、地域のみんで話し合い、計画的に解決に向かうよう取り組んでいます。



都筑区社会福祉協議会
キャラクター「ゆいピー」

◆地域ケアプラザ

地域ケアプラザは、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、身近な福祉・保健の拠点として取組を行っている横浜市独自の施設です。

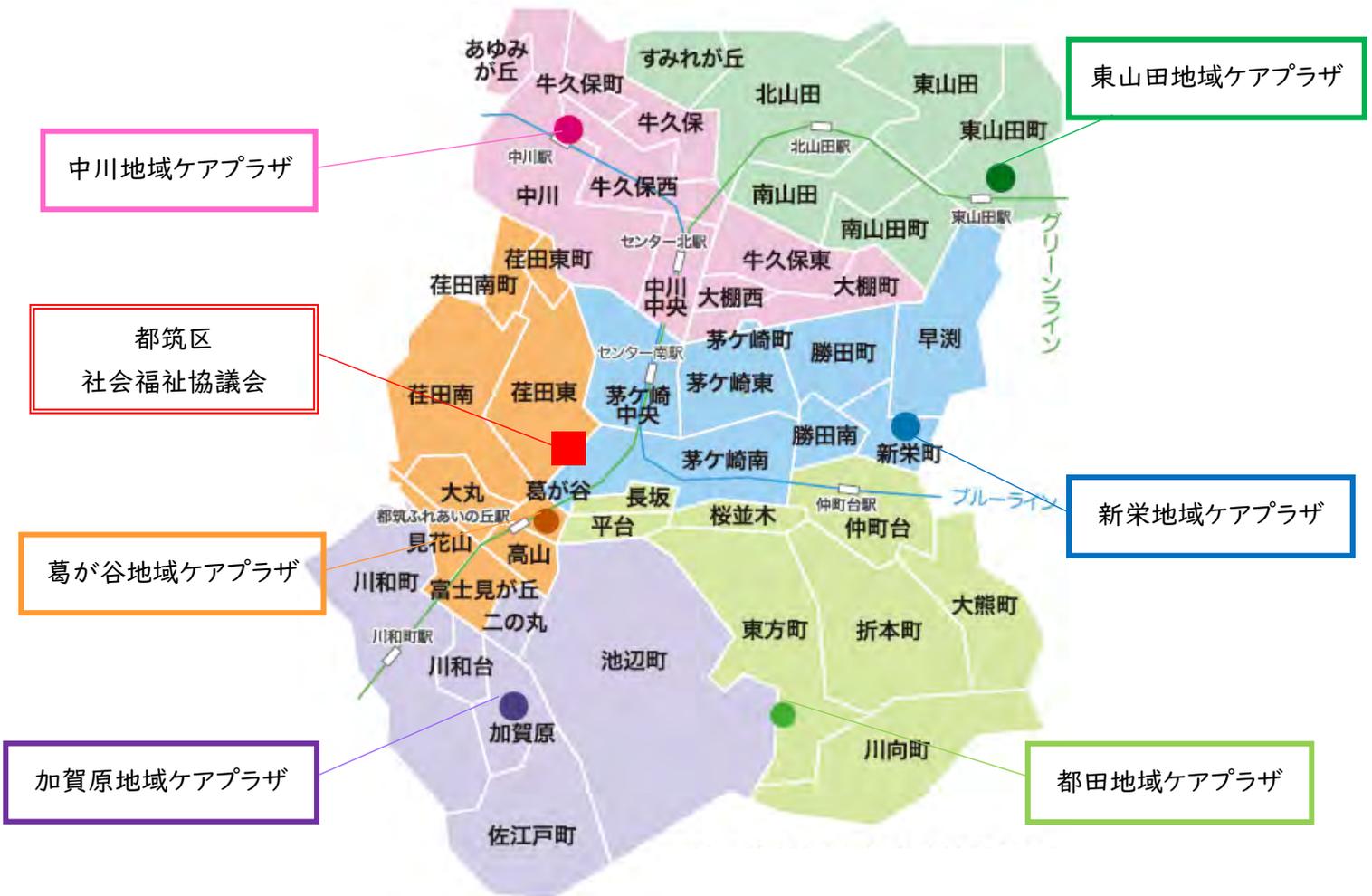
生活の困りごとや介護保険等に関する相談・支援のほか、健康講座や子育てサロンの開催、地域のつながりづくりや福祉・保健活動の支援、交流の場の提供等を行っています。高齢者デイサービスを実施している地域ケアプラザもあります。

「困りごとを相談したい」「地域とつながりたい」「ボランティアをしたい」「場所を借りたい」など、地域での暮らしに関するさまざまなニーズに寄り添います。



横浜市地域ケアプラザキャラクター
「ケアプラくん」

【地域ケアプラザ・区社協の案内地図】

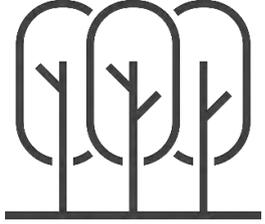


第2章 第5期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」の基本的な考え方

1 都筑区の特徴

都筑区は、かつて住む人の多くは農業を営んでいましたが、鶴見川沿岸への工場の進出によって、働く人々が大勢通うようになりました。また、港北ニュータウンの開発により、自然を活かした緑の環境や、計画的に整備された道路、身近な公共施設等の整備が進みました。現在は、大型商業施設での買い物のために区外から足を運ぶ人も増え、「住む」「働く」「訪れる」「交流する」など、多様な魅力があります。

区が誕生した平成6年(1994年)から約30年間で人口は約2倍に増えました。現在(令和7年1月1日時点)は、平均年齢が市内で3番目に若い区ですが、今後は急激に高齢化が進むことが推測され、全世代の健康づくりや地域・社会参加を通じたつながりづくりがますます重要となっています。

<p>①人口</p> <p>現在の人口は約21万4千人 18区中7位 (2025年1月末時点) 今後人口は減少する見込み。</p> 	<p>②世帯</p> <p>1世帯あたりの人数が多い。 18区中1位 (2025年1月1日時点) 今後、夫婦のみ世帯が増える見込み。</p> 	<p>③人の動き</p> <p>0~14歳、30歳以上の転入者割合が市平均と比べて多い。 (2024年中)</p> 
<p>④健康</p> <p>平均寿命、平均自立期間(※)が長い。</p>  <p>※日常生活に介護を要しない期間の平均</p>	<p>⑤高齢化</p> <p>現在は、高齢化率が18区中18位 (2025年3月末時点) 2035年以降、高齢化率が横浜市平均を超える予想。</p> 	<p>⑥経済活動</p> <p>農業、工業、商業が盛ん。 農家戸数……18区中1位 (2020年2月1日時点) 製造業事業所数…18区中2位 商店数……18区中4位 (2021年6月1日時点)</p> 
<p>⑦環境</p> <p>自然豊かな緑道や公園が整備されている。</p> 	<p>⑧交通</p> <p>横浜市営地下鉄ブルーラインとグリーンラインの2路線が走っている。また、第三京浜道路や神奈川7号横浜北線・横浜北西線があり、交通利便性が高い。</p> 	<p>⑨多文化共生</p> <p>84カ国の方が生活している。 (2025年4月末時点)</p> 

2 第4期計画の振り返り

(1) 主な取組と成果

第4期計画では人と人との「であい ささえあい わかちあい」を基本理念とし、3つの推進の柱をもとに取組を進めました。計画期間の前半は新型コロナウイルス感染症の蔓延により、地域の取組を縮小・休止せざるをえなくなることもありましたが、開催方法を工夫することで、新たな地域活動の形が生まれました。また、地域でのつながりの大切さも改めて認識されています。

推進の柱1 であいが広まり、つながりのある地域づくり

- ・多世代交流事業や自治会町内会の取組の工夫等を行うことで、あらゆる世代の人が気軽に地域と関わるきっかけが広がっています。
- ・お互いを知るための講座や福祉教育、交流できる場を通じて、お互いを認め合い、多様性が尊重される地域づくりが進んでいます。



自治会町内会加入促進イベント



小・中学校での福祉教育

推進の柱2 お互いにささえあい、必要な人に支援が届く仕組みづくり

- ・暮らしの中でつながる機会を逃さずに情報を提供し、支援につなげる仕組みが出来ています。
- ・会場や時間帯を見直すことで、相談しやすい体制が広がっています。また、手を差し伸べる人も孤立しないよう、ネットワークづくりが進められています。



水道検針員への生活困窮関連制度の説明



地域ケアプラザで実施している赤ちゃん会

推進の柱3 地域における様々な主体が連携しながら、地域がもつ力をわかちあえる地域づくり

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で停滞していた社会福祉法人との連携が徐々に再開しています。
- ・青少年のボランティアや身近な生活の困りごとに対するボランティアの輪が広がっています。
- ・住民からの声をきっかけに、民間企業と連携した取組が広がっています。



ボランティア情報を見ている様子



移動販売

(2) 第5期計画に引き継がれる課題(第5期計画のポイント)

◆多くの人が身近な地域活動に関心を持ち、気軽に参加できる環境づくり

- ・きっかけがないと地域活動に参加しにくいとの声があるため、活動に関心がある人と活動団体をつなぐコーディネート力を強化します。
- ・地域活動者が少なく、負担が大きい現状があります。多様な人・団体の参入やデジタル化によって、活動が十分に継続できるような工夫を行います。



◆誰も取り残さない地域づくり

- ・自分で困りごとを表出することが難しい人に対し、周囲が気付き、支援機関等につなぐことができるよう、福祉保健の情報発信や見守りの目を増やしていきます。
- ・孤立予防、生きがいづくりのために、日常生活の中にある居場所の継続・創出に取り組みます。



◆多様性の尊重

- ・誰もが尊重され、自分らしく生活できる環境づくりを進めます。
- ・立場や背景で区切らず、お互いを知る機会や、様々な人が交流できる場を継続し、ささえあいの気持ちを育てていきます。



◆多様な主体との協働

- ・大規模商業施設や学校、NPO法人、地元企業等が数多くある都筑区の強みを活かして、福祉保健活動のすそ野を広げます。



Ⅰ 計画の全体像

誰もが安心を実感しながら 健やか

であい

目指す姿Ⅰ

であいが広がり、
つながる機会が
たくさんある

ささえ
あい

- ①多くの人が気軽に参加できるきっかけづくりを進めます。
- ②地域で活動する団体や住民同士の交流の場をつくりまます。
- ③地域の身近なささえあい活動を進めている団体を支援します。
- ④多くの人や団体と地域がつながりをもてるよう、コーディネートに力を入れます。
- ⑤地域活動を応援する法人・商店・企業等との連携を進めます。
- ⑥多くの人に情報が伝わるよう、工夫して発信します。

- ①日頃からのさす。
- ②身近な地域にします。
- ③適切な相談先が相互に役割
- ④地域ケアプラ先を引き続き
- ⑤身近な地域で取り組みます
- ⑥福祉保健に関住民の気づき困りごとを地
- ⑦分野やテーマ各種機関同士みまます。

区役所・
区社協・
地域ケアプラザ
の取組

基本理念

に住み続けられるまち つづき^{あい}♡を目指して

目指す姿2

ささえあい、
健やかに生活できる

ささえあいの大切さを広めま

おける居場所づくりを推進

を案内するために、各団体
や機能を十分に把握します。

ザ等、身近な地域での相談
周知します。

の健康づくり・介護予防に
。

する情報を地域と共有し、
を大切にしながら、様々な
域とともに解決していきます。

ごとのネットワークを通じて、
の連携や、課題解決に取り組

わかち
あい

目指す姿3

多様性が尊重され、
その人らしく
生活できる

①様々な人が立場や背景を超えて交流
する場をつくります。

②「人はみんな違って当たり前」を理
解するための講座や研修を開催しま
す。

③自らの意思が反映された生活を送る
ことができるよう支援します。

④誰もがやりたいことを実現でき、自
分らしく活躍できる環境を整えます。

2 第5期計画の考え方

(1) 基本理念

基本理念

誰もが安心を実感しながら 健やかに住み続けられるまち つづき^{あい}♡を目指して

「基本理念」は、計画の推進を通じて目指す、都筑区の共通の目標像です。

都筑区では、第1期から第4期まで、人と人の「であい ささえあい わかちあい」を基本理念にしてきました。第1期策定から20年が経とうとしている今、目標像に向かってさまざまな取組や地域活動が進む中で、「であい ささえあい わかちあい」が広がった先にある都筑区の姿を、より具体的に、地域のみなさんと共有する必要があると考えました。

都筑区が、「住んでいるみなさんにとって」「社会的にも心理的にも安心を感じながら」「健やかに暮らせるまち」でありたいという思いを込めて、第5期計画の基本理念を設定しました。

(2) 目指す姿

基本理念の達成に向けた地域の具体的な像として「目指す姿」を整理しています。第1期から第4期までの、人と人の「であい ささえあい わかちあい」の考え方を引継ぎながら、第5期計画では、目指す姿を3つ設定しています。

目指す姿1

であい

であいが広がり、つながる機会がたくさんある

目指す姿2

ささえあい

ささえあい、健やかに生活できる

目指す姿3

わかちあい

多様性が尊重され、その人らしく生活できる

(3) 区役所・区社協・地域ケアプラザが地域の皆さんと取り組んでいくこと

目指す姿に近づくための取組を「区役所・区社協・地域ケアプラザが地域の皆さんと取り組んでいくこと」として記載しています。人と人がつながるきっかけである「であい」をつくり、そのうえに「ささえあい わかちあい」ができるような人のつながりを広げていくという考え方を継承し、取組を進めていきます。

「つづき あい」の「安心」には色々な意味が込められているよ。

- ◆社会的な「安心」：信頼できる人や地域・環境に囲まれていることで得られる安定感
- ◆心理的な「安心」：心配事がなく、気持ちが落ち着いている状態

人によって「安心」の感じ方は違うからこそ、住民一人ひとりの暮らしや生活課題に着目した取組が必要になってくるんだね。



コラム 皆さんの意見をお聞きしました

第5期計画の策定に向けて、区民や関係者・関係団体からご意見をいただきました。また、小・中学生にもヒアリングを行い、未来を担う子どもたちの視点も大切に策定を進めました。いただいた声を一部ご紹介します。

区民意見募集

『区役所・区社協・地域ケアプラザ』だけではなく、その他の機関・団体も、様々な人が協働して取り組むことを表現できたら良い。

やさしい表現で読みやすかった。

年齢や場所などなんにも垣根や排除は要らない。誰でも受け入れる寛容な土壌が大切。

訪問のご家庭は、高齢者だけではなく、絵をファミリーにしてほしい。

必要な人に必要な情報がより届くような取組をしてほしい。

サロンに来て、と声をかけてくれた。1回声をかけられても知らない所に行くのは勇気が要る。でも2回も声をかけてくれたから安心して参加することができている。

小・中学生へのヒアリング

(中学生) イラストがあると、伝えたいことが分かりやすい。

(小学生) 挨拶を頑張りたい。

(中学生) まちの情報が自分達には届きにくい。

(中学生) 自分達の意見を反映できる場があってとても嬉しかった。



困りごとを話せる地域、困りごとを他人ごとにしらない地域にしていく。

孤立させない地域にしたい。

単に健康づくりを進めるのではなく、人とのつながりを大切にしている。

関係機関・団体へのヒアリング

子どもを地域で育て、見守る意識が必要。

枠を限定せずに知り合える場があると良い。

関係機関・団体へのヒアリングの詳細は P.32 をご覧ください。



いただいたご意見は計画冊子に反映し、推進に活かしていきます!

目指す姿！「であい」 であいが広がり、つながる機会がたくさんある

◆背景や課題

- 地域で活動する人の固定化や減少により、負担が増加し、活動の継続が難しくなっている場合があります。
- また、価値観やつながりの多様化で、身近な地域での人と人とのつながりが希薄化しているとの声も聞かれます。
- しかし、困りごとがあっても、自分や家族だけでは解決できない時があります。
災害等の緊急時はもとより、日常生活の中でも、共助によるささえあいが重要です。

◆取組の方向性

- 地域におけるささえあいの活動が今後も継続できるよう、地域で活動する関係組織・団体の支援に取り組みます。
- ささえあいを進める第一歩として、多くの人が身近な地域について興味や関心を持ち、地域活動へ気軽に参加できる環境づくりを進めます。
- 地域活動を行うにあたって、価値観や困りごとの変化を捉え、多様な視点を持って推進します。

<区役所・区社協・地域ケアプラザが地域の皆さんと取り組んでいくこと>

- ① 多くの人が気軽に参加できるきっかけづくりを進めます。
- ② 地域で活動する団体や住民同士の交流の場をつくります。
- ③ 地域の身近なささえあい活動を進めている団体を支援します。
- ④ 多くの人や団体と地域がつながりをもてるよう、コーディネートに力を入れます。
- ⑤ 地域活動を応援する法人・商店・企業等との連携を進めます。
- ⑥ 多くの人に情報が伝わるよう、工夫して発信します。

あなたが出来そうな
ことは何だろう？



あなたの一歩で
地域がもっと良くなる。

取組例

- ・ ボランティア講座の開催
- ・ 区民活動センターでの講座の開催
- ・ 地区社会福祉協議会への支援
- ・ ボランティアセンターの運営
- ・ 誰でも参加可能なイベントの開催
- ・ フードドライブ(※)の実施
- ・ やさしい日本語や多言語での表記
- ・ 地域ケアプラザ広報誌での情報発信
- ・ 地域のささえあい連絡会や地域懇談会の開催支援
- ・ 自治会加入促進への取組の実施
- ・ 各種補助金・助成金の推進
- ・ 商業施設との連携
- ・ 移動販売への協力

※フードドライブ…各家庭で使い切れない未使用食品を持ち寄り、地域の福祉施設・団体や食にお困りの方などに寄贈する活動

コラム 「食」でつながる多世代交流

シニア世代が多く活躍する NPO 法人ロクマルでは、高齢者や子育て中の家庭へお手紙付きのお弁当を届ける活動や地元の野菜を使った地域食堂の開催等、多世代交流にも力を入れています。

パン作りを通して地域活動を行う「パンじいちゃん」活動は、毎月パンづくり体験会を開催し、特に子育て世代から大人気です。子ども達にパン作りを教えている最中、保護者の方も一緒に話を聞き質問する、ということもあり、3世代交流の場になっています。



パン作りの様子



完成したピザ

お問い合わせ先
新栄地域ケアプラザ
☎592-5255

コラム だれもが来られる。だれもが楽しめる。

都田地域ケアプラザでは小さな子どもやその家族、高齢者や障がいのある方など、どなたでも負担なくコンサートを楽しんで頂けるよう工夫を凝らした「四季のコンサート」を開催しています。

演奏中でも自由な出入りを可能として、子どもが声を出したり動いたりしても安心して参加いただけるよう会場の半分にジョイントマットを敷いています。また、車いすにも対応できるようスペースを確保しています。多くの方が気軽に参加できるきっかけ作りを進めています。

お問い合わせ先 都田地域ケアプラザ ☎945-0076



コンサートの様子



コラム ボランティアコーディネート

都筑区社会福祉協議会にはボランティアを必要としている人とボランティア活動をしたい人をつなげたり、様々なボランティアのコーディネートをしています。に関する情報を提供するボランティアセンターがあります。ボランティアは、イベントのお手伝い、公園や水辺の自然維持・整備清掃、得意なことを活かした活動のほか、や障害のある方が外出するときの付き添いボランティア(ガイドボランティア)、災害時のボランティアなど多岐に渡り、交流をきっかけに互いに信頼し助けあえるきっかけとなります。



目指す姿2 「ささえあい」

ささえあい、健やかに生活できる

◆背景や課題

- 本人自身や家族に困り感がなく、相談できることに気が付かない結果、適切な相談につながらず、様々な課題が深刻化・複雑化することがあります。
- 周囲の人が困りごとに気が付いても、1人では行動できず、抱えてしまう場合もあります。
- 1人でも健康づくり・介護予防の取組は実施できますが、つながりをつくることで、より心身の健康に効果があります。実際に、身近な活動を通じて、顔の見える関係が作られ、安心や生きがいにつながっています。

◆取組の方向性

- 困りごとを抱えている人自らが、相談しやすい環境づくりに取り組みます。
- 事態の深刻化を防ぐために、誰かが変化に気づき、周りの人や機関に早期につながるような、見守り・ささえあい活動を推進します。
- 助けが必要な人も手を差し伸べる人も孤立しないような体制づくりを進めます。
- 引き続き、身近な地域でのつながりを大切にした健康づくり・介護予防を推進します。

<区役所・区社協・地域ケアプラザが地域の皆さんと取り組んでいくこと>

- ① 日頃からのささえあいの大切さを広めます。
- ② 身近な地域における居場所づくりを推進します。
- ③ 適切な相談先を案内するために、各団体が相互に役割や機能を十分に把握します。
- ④ 地域ケアプラザ等、身近な地域での相談先を引き続き周知します。
- ⑤ 身近な地域での健康づくり・介護予防に取り組みます。
- ⑥ 福祉保健に関する情報を地域と共有し、住民の気づきを大切にしながら、様々な困りごとを地域とともに解決していきます。
- ⑦ 分野やテーマごとのネットワークを通じて、各種機関同士の連携や、課題解決に取り組みます。

あなたが出来そうなことは何だろう？



誰かのちょっとした困りごとに、あなたの一言が力になるよ。

取組例

- ・ 災害時要援護者支援事業の実施
- ・ 地区社会福祉協議会への支援
- ・ 地域での見守り活動の支援
- ・ こども食堂の開設・運営支援
- ・ 学習支援
- ・ 地域ケアプラザによる地域への出張相談
- ・ 自立支援協議会(※)への参画
- ・ 各種相談先・相談窓口の啓発
- ・ 保健活動推進員や食生活等改善推進員の活動支援
- ・ 介護予防事業の実施
- ・ 元気づくりステーションの運営支援
- ・ 子どもの支援団体連絡会の開催
- ・ 子どもたちの健やかな育ちを支える地域づくり事業

※自立支援協議会…障害のある方が地域で安心して生活するために、

「人と人をつなぎ、地域の課題を地域の中で共有し、解決に向け協働する場」

コラム 身近地域で健康づくり

医療・福祉の専門家が「地域の皆さんの健康のお手伝いをしたい」「からだに関する心配事を気軽に相談できる場所を作りたい」という気持ちから、「からだ相談会」を開催しています。体力測定、医師の話、薬剤師や理学療法士等介護保険事業所のスタッフ、東山田地域ケアプラザの職員がお困りごとの相談にのっています。一人で参加が難しい方には、事業所の車を使っての送迎も実施しており参加される皆さんの笑顔があふれる会になっています。

お問い合わせ先 東山田地域ケアプラザ ☎592-5975



薬剤師からの講話



体操講座



体力測定と医師の相談会

コラム 地域と子どもたちとの「ささえあい」

「おはよう食堂」は、中学校からの「朝ご飯を食べずに登校する生徒がいる」との話を耳にしたことから始まり、現在、毎月1回、ふれあいの丘地区にある富士見が丘自治会館で登校前の児童生徒へ朝食を提供しています。

地域住民から食材を提供していただいたり、小中学校の学校長も毎回様子を見に来ています。食堂を利用している児童生徒が地域とつながったことで、夏まつりなど地域行事のお手伝いに来てくれるようになり、子どもたちが活躍する機会が増えました。

お問い合わせ先
葛が谷地域ケアプラザ
☎943-5951



開催の様子



栄養満点な朝ごはん



コラム 日頃の小さな支えあいが、災害時には大きな力に

災害時にも助け合えるよう、地域で日頃からの支えあいの関係を築く取組を進めています。災害時に支援を必要とする人を把握する取組や、訪問やボランティア登録、交流会などを通じて、お互いを知る機会が広がっています。「大丈夫？」と声をかけ合える関係があることで、日常のちょっとした困りごとにも気づきやすくなり、災害時だけでなく、日常の安心にもつながっています。



訪問の様子



交流会の様子



啓発冊子

お問い合わせ先 都筑区役所 福祉保健課 ☎948-2345

目指す姿3 「わかちあい」

多様性が尊重され、その人らしく生活できる

◆背景や課題

- 誰もが自分らしく暮らしていくためには、それぞれが優先していること・大切に思っていること等をお互いに認め合い、尊重し合える意識を高めていくことが大切です。
- 様々な立場や背景のある人に対する偏見や差別があることで、本人が生きづらさを感じたり、当たり前で暮らすことが難しくなっていたりする人がいます。

◆取組の方向性

- 様々な立場や背景、価値観等、単に見た目の違いだけでなく、「みんな異なる」ことをお互いが認め、自分らしく生活できたり、活躍できる機会をつくります。
- 地域全体で多様性の理解を広め、支援が必要な時に、声を上げやすい環境づくりを進めます。

<区役所・区社協・ケアプラザが地域の皆さんと取り組んでいくこと>

- ① 様々な人が立場や背景を超えて交流する場をつくります。
- ② 「人はみんな違って当たり前」を理解するための講座や研修を開催します。
- ③ 自らの意思が反映された生活を送ることができるよう支援します。
- ④ 誰もがやりたいことを実現でき、自分らしく活躍できる環境を整えます。

あなたが出来そうなことは何だろう？



あなたらしい
答えていいんだよ。

取組例

- ・ 認知症カフェの運営・継続支援
- ・ 農福連携(※)の推進
- ・ 障害施設自主製品の販路拡大
- ・ 多世代交流事業の実施
- ・ 権利擁護事業の実施
- ・ 防災訓練への多様な人の参加促進
- ・ 障害理解講座の実施
- ・ 認知症サポーター養成講座の実施
- ・ 福祉教育の推進
- ・ エンディングノートの普及啓発

※農福連携…障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組

紙面調整中

コラム 多世代交流と福祉教育 ～地域で子育てを支えるまちづくり～

中川エリアでは、地域全体で子育てに関わるまちづくりを大切にしています。エリアには小学校4校、中学校3校があり、若い世代も多く住んでいます。祖父母と離れて暮らす家庭が増える中、地域の老人会やシニア世代と協力し、ボッチャやモルックを楽しんだり、福祉用具に触れたり、地域の歴史を学ぶ活動を行っています。こうした多世代交流は、子どもたちのさまざまな気づきや学びの機会となり、地域の方の活躍の場にもなっています。

お問い合わせ先

中川地域ケアプラザ ☎500-9321



モルック



車いす体験とボッチャ

コラム ひと・まち・アートでつながる地域

川和アート展は、障害者施設や高齢者施設を利用している方々の作品を紹介する取り組みです。スタンプラリー形式で、年に1回、2週間開催されています。地域の皆さんがいろいろな施設を巡り、そこに集う方々の活動を知ることができるのも魅力です。人と人が自然につながり、一人ひとりの思いを大切にしたい、自分らしく暮らせる地域づくりを目指し、この取り組みに協力しています。



アート展の様子



小さなアーティストたちも作成中!

お問い合わせ先 加賀原地域ケアプラザ ☎944-4640

コラム ちがいを楽しむ、つながりを育む

suzuki International Friendship (TIF)は子どもが育つ中で、誰もが安心して楽しく暮らすことを応援しているネットワークです。幼い頃に地域の場で遊び、成長してボランティアに関わり、やがて誰かの力になりたいと戻ってくる、—そんな地域での循環をつくれるように、様々な子どもたちが自分らしく成長するための支援をしています。また、年齢、性別、国籍や障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめるイベント「DE&I フェスティバル」等を通じて、様々な人とのつながりを感じ、心地よく暮らせる都筑区が広がることを目指しています。



DE&I フェスティバルの様子



お問い合わせ先 都筑多文化・青少年交流プラザ(つづき MY プラザ) ☎914-7171

第4章 区計画の推進と振り返り

1 推進

第5期計画で掲げた基本理念・目指す姿の実現に向けて、区役所の各部署、区社協、区内地域ケアプラザは、各取組をより具体化し推進します。

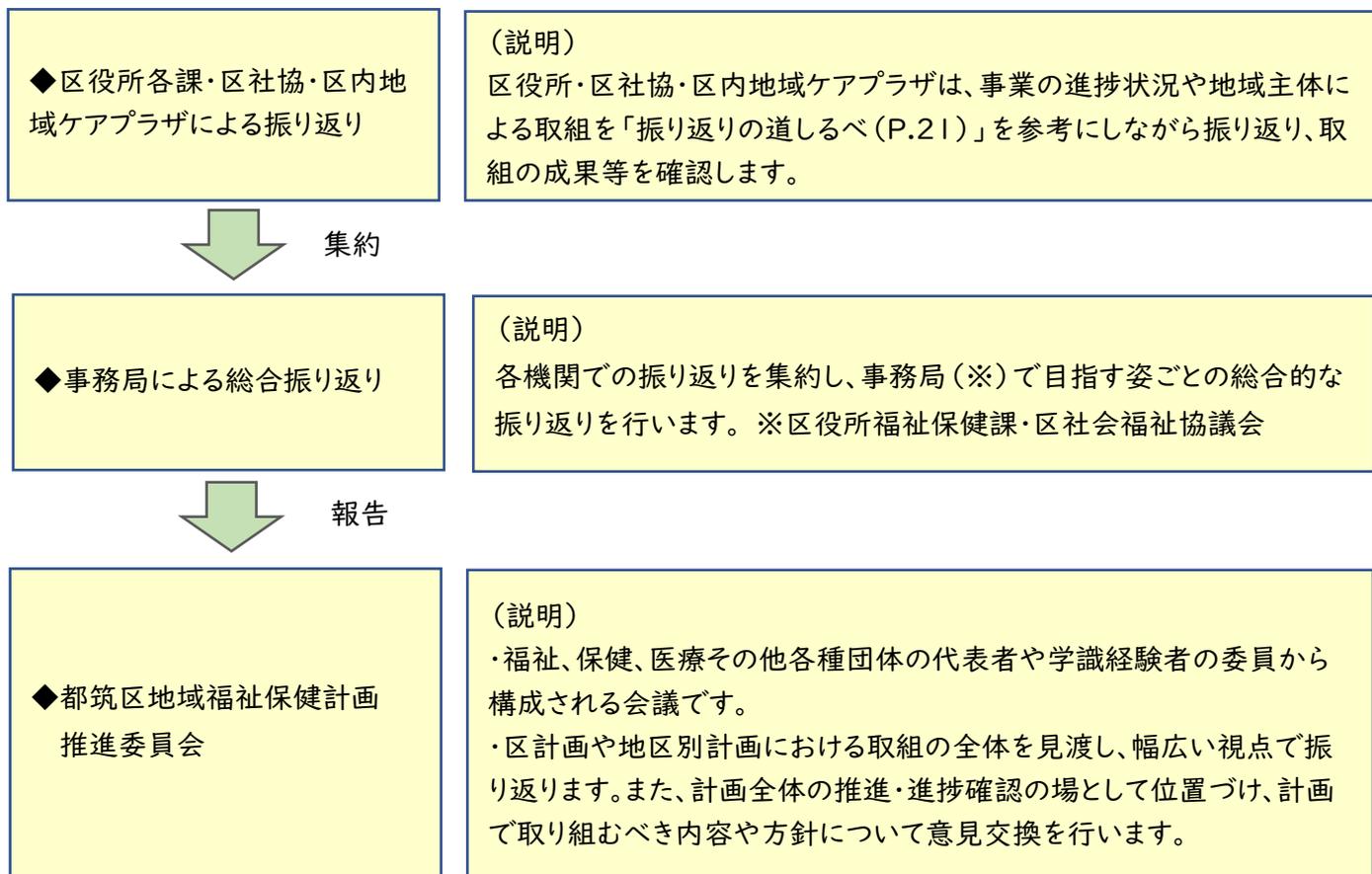
例 取組1-①多くの人が気軽に参加できるきっかけづくりを進めます。



2 進捗状況の確認・振り返り

次の方法によって、年度ごとに推進の進捗状況の確認をし、振り返りを行います。

(1) 振り返りの手順



(2) 振り返りの時期

毎年度実施します。

(3) 振り返りの考え方

次の2つの視点で振り返りを行い、次年度の推進や次期計画策定に活かします。

○目指す姿に近づくための取組の内容や量(取組・アウトプット)

「どのように取組を進めたか」「どの程度取組を進めたか」

例 取組○-○に沿って、ケアプラザでは○○に取り組んだ。

○取組による地域の変化(成果・アウトカム)

「目指す姿にどのくらい近づいたか」

例 取組○-○に沿って、○○の取り組みをした結果、地域に▲▲の変化があった。

道しるべの「アウトカム」を参照しながら、
地域の変化を考えます。

(4) 「振り返りの道しるべ」(P.21)

第5期計画では、取組が目標や目指す姿に至るまでの流れを、フローチャートの形でまとめています。

このフローチャートを振り返りの際に活用することで、計画した取組と目指す姿の関係が適切か、必要な取組が網羅されているかについて、関係者で検討・共有しやすくなります。

フローチャートは次のページ(P.21)に示しています。

どうして「振り返りの道しるべ」を作ったの？

この事業、参加者が
昨年より少ないな。

そもそもこの事業は何
の目的でやっている
んだっけ。

そんな時は、「道しるべ(P.21)」を見て
みよう。

色んな人がこの事業に
関わっているし、何のため
にやっているか立ち返ろ
う。

これを目指してや
っていたんだっ

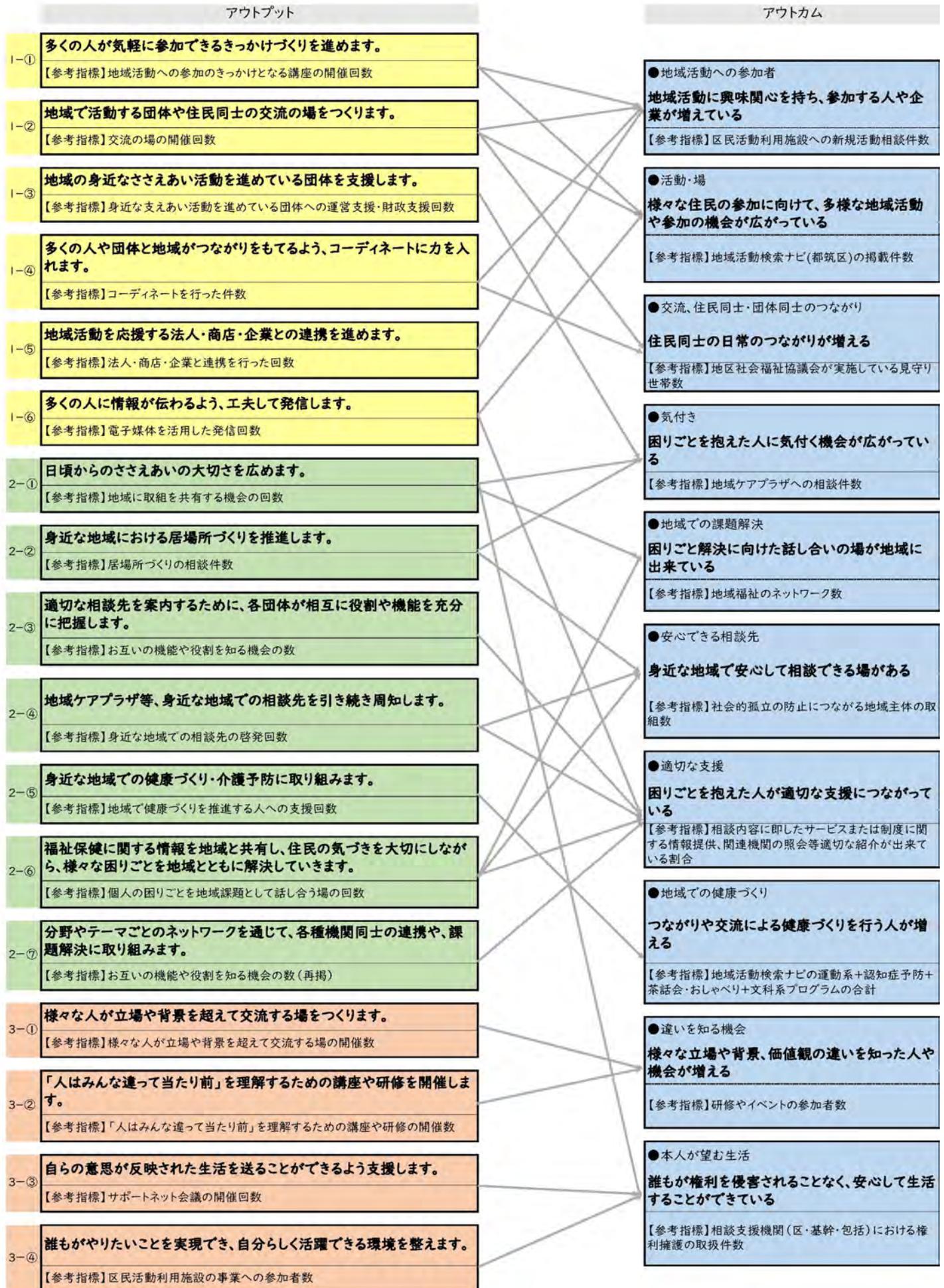
やることに必死にな
って、目指す姿を見
失っていた。

道しるべがあると、振り返る時に「取り組んだ
こと」だけではなく、「取り組んだ結果どのよう
な影響があったか」に目を向けやすいね。

この目的を達成するた
めには他のやり方でも
いいかも!

区役所・区社協・地域ケアプラザの「振り返りの道しるべ」フローチャート

目指す姿（最終アウトカム）と各取組（アウトプット）の主な因果関係を矢印で示しています。



記載している参考指標は、計画の推進状況を振り返るうえで、客観的な評価ができるよう一例として設定しています。

中間アウトカム

最終アウトカム

◆住民の支えあいが充実する

◆困りごとを抱える人が安心して自分らしく暮らせる

◆多様な主体の連携・協働による地域課題の解決に向けた活動が充実する

◆住民・関係機関・団体が連携して、複雑・多様化した課題を抱えた人に継続的に寄り添い、関わっている

◆住民が多様性を理解し、尊重しあえる

◆住民のつながりを通じて健康が増進される

◆であいが広がり、つながる機会がたくさんある

◆ささえあい、健やかに生活できる

◆多様性が尊重され、その人らしく生活できる

第5章 地区別計画の推進と振り返り

1 地区別計画とは

「地区別計画」はそれぞれの地域の特性に合わせ、地域が主体となって地域の課題解決に向けた取組を進めるための計画です。地域ごとに自分たちのまちを「こんなまちにしたい」という、思いが込められています。

それぞれの地区の概況や、各地区が考える目標と具体的な取組等を計画にまとめています。

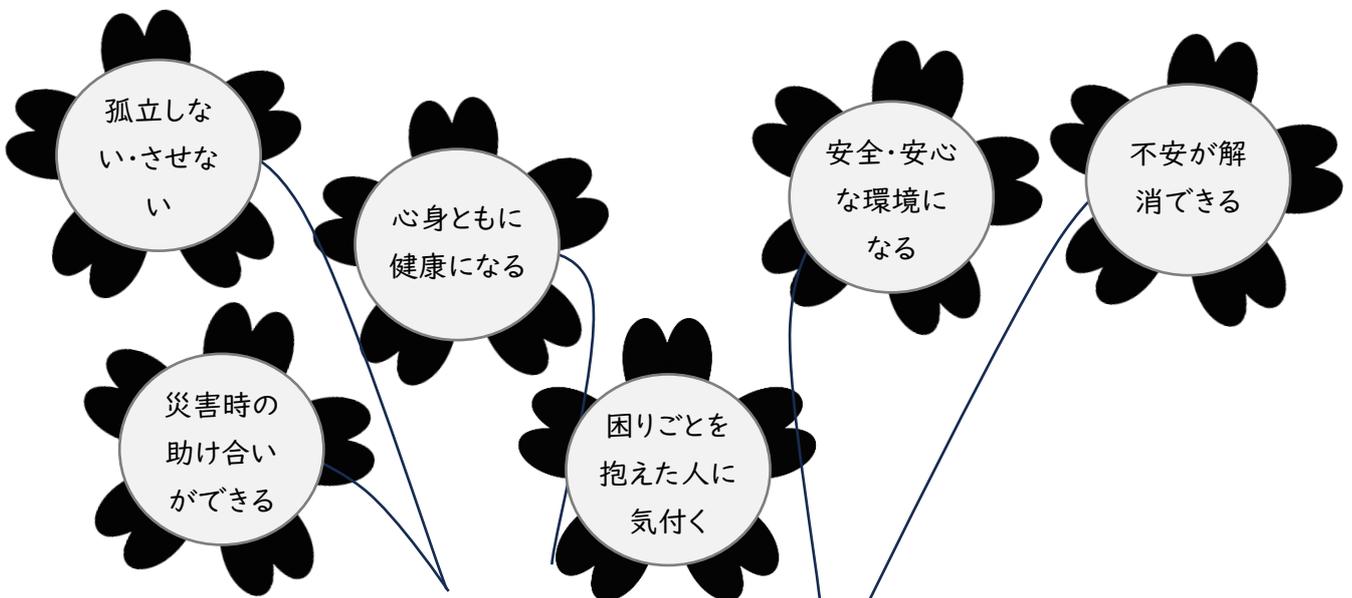
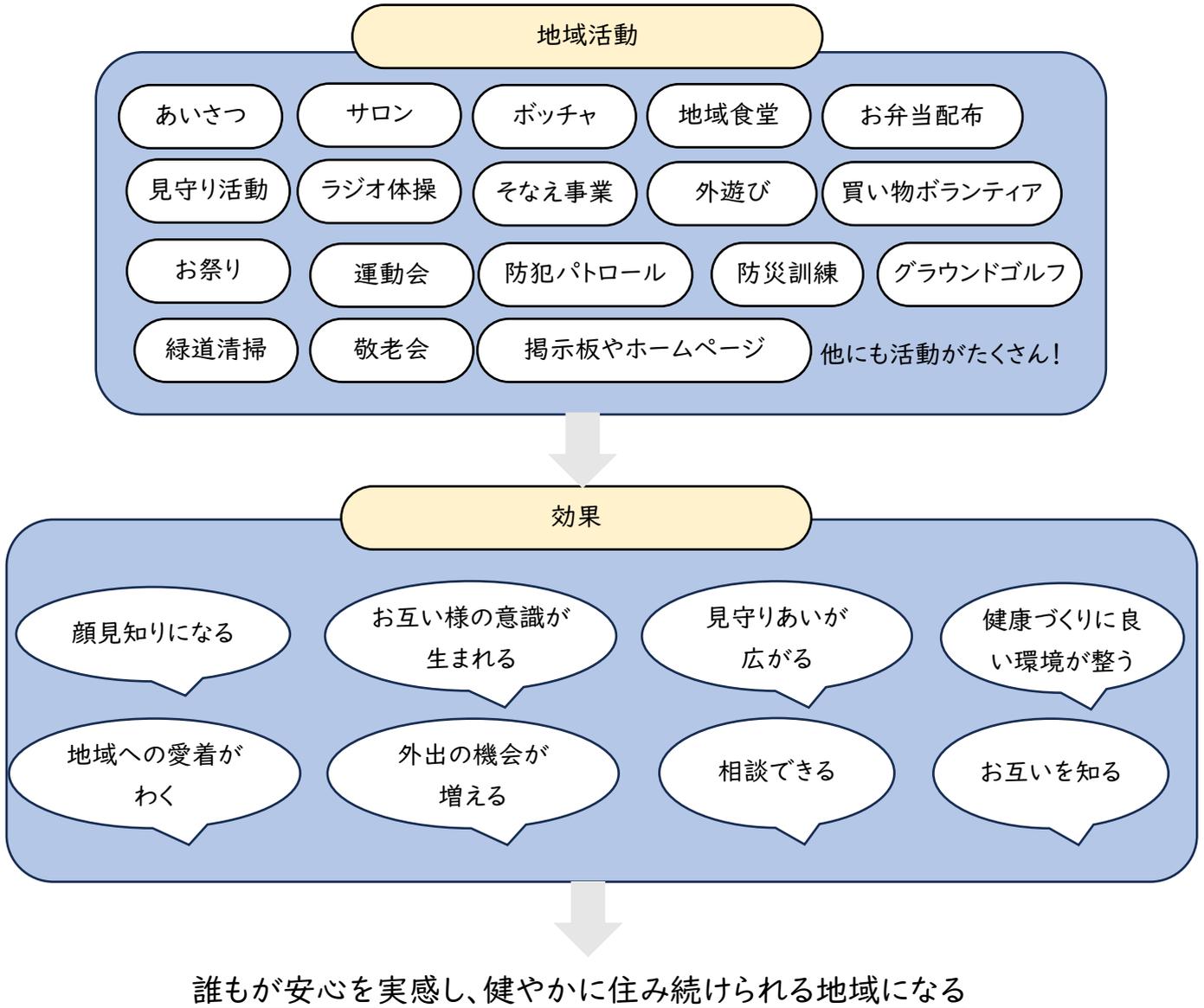
2 地区別計画の圏域

都筑区では、15の地区連合町内会自治会及び地区社会福祉協議会エリアを単位として策定しています。



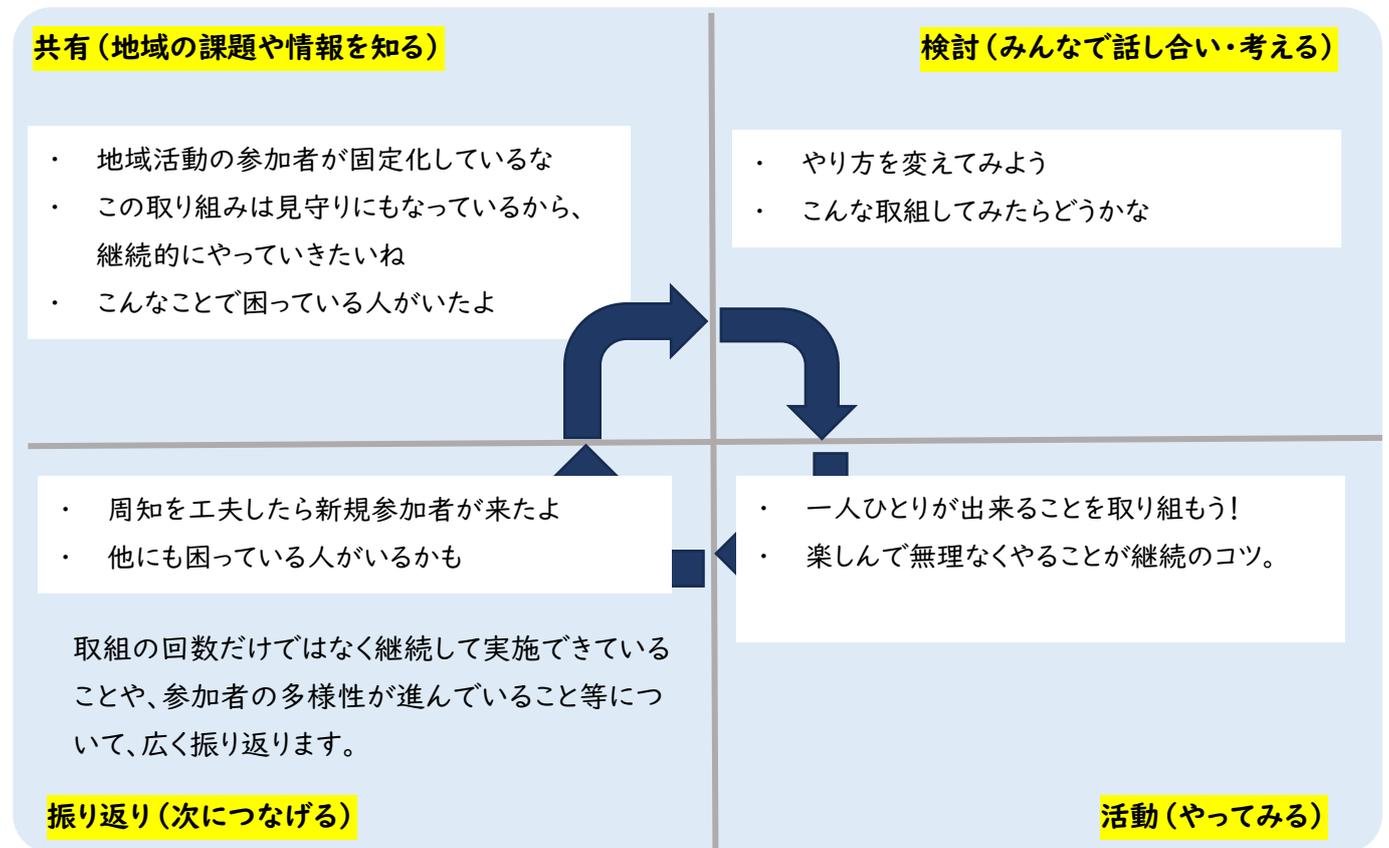
3 地域活動が、暮らしやすいまちにつながるしくみ

地域の中では、それぞれの目標に向かって、様々な地域活動が進められています。地域活動は「楽しさ」だけでなく、住んでいる人一人一人の困りごとの解決や安心感につながっています。



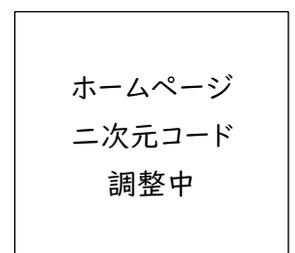
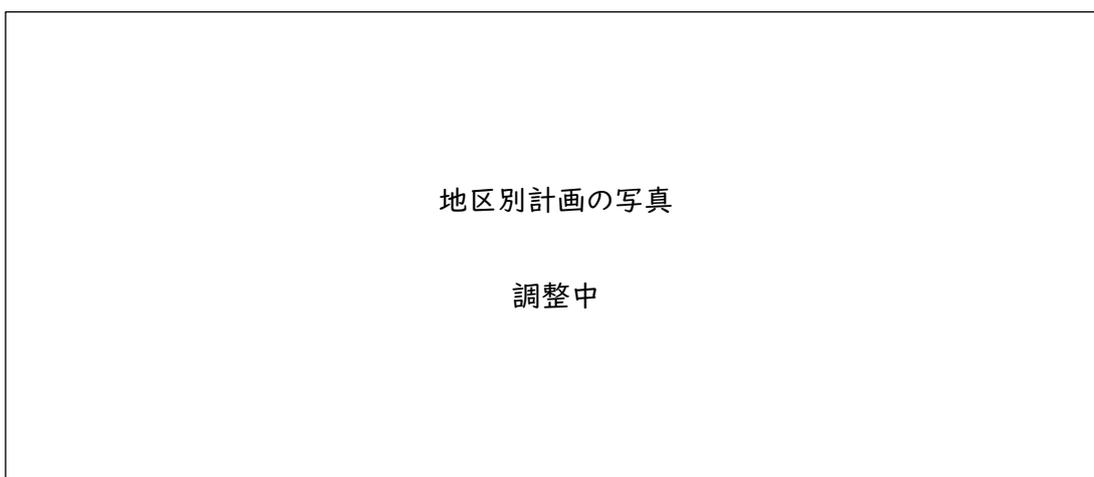
4 計画の循環

地区別計画で掲げた目標に近づくために、地域の皆さんそれぞれが感じている課題を話し合い、地域に必要な取組や活動を考えていくことが大切です。話し合いの場が新しい活動を生み、今ある活動をさらに良くするきっかけとなり、地域づくりの循環をつくります。



既存の会議・体制を活用しながら、継続して地区別計画の推進・進捗確認を行います。

【地区別計画冊子】



5 計画策定の経過

地区別計画の策定にあたっては、各地区での取組や地域の課題について振り返り、第5期計画期間中に目指したい目標や具体的な取組について、話し合いを進めました。

各地区で開催されている推進委員会や地域懇談会には、自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員等地域で活動する団体から様々な立場の人が参加しています。

また、地域懇談会で把握した各地区に共通する課題については、区計画へも反映させていきます。



地域懇談会の様子

地域懇談会等での意見交換

第4期地区別計画の推進・振り返り

- 地域の現状や課題の共有
- 第4期計画の振り返りに関する意見交換

第5期地区別計画の検討・策定

- 各地区での第5期計画における課題と課題解決に向けた目標及び取組項目を検討

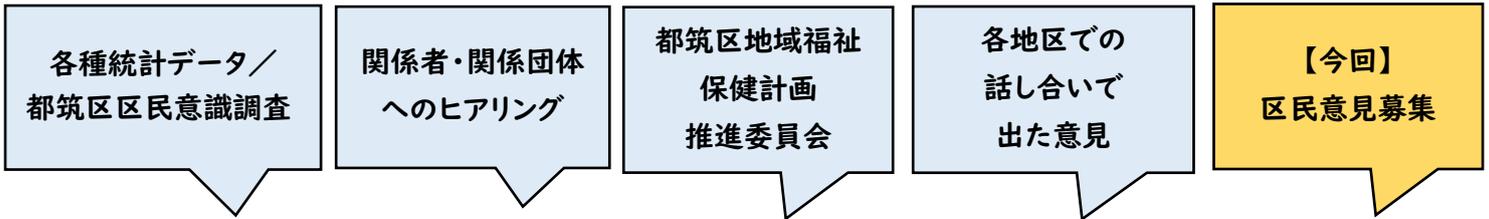
各地区で出た意見(抜粋)

- ・昔から住んでいる住民と転入してきた住民とのつながりを強化したい。
- ・子ども(小学生、中学生)の意見を聴きたい。
- ・地域活動へ若者にもっと参加してほしい。
- ・地域活動者や地域懇談会の参加者が固定化している。
- ・意見は色々出るが、具体的な活動の実現につながらない。

6 地域へのサポート体制

地区別計画の推進にあたっては、区役所、区社協、地域ケアプラザが連携した「地区別支援チーム」として、地域の話合いの場や様々な活動を支え、応援していきます。

第6章 計画策定の経過と背景

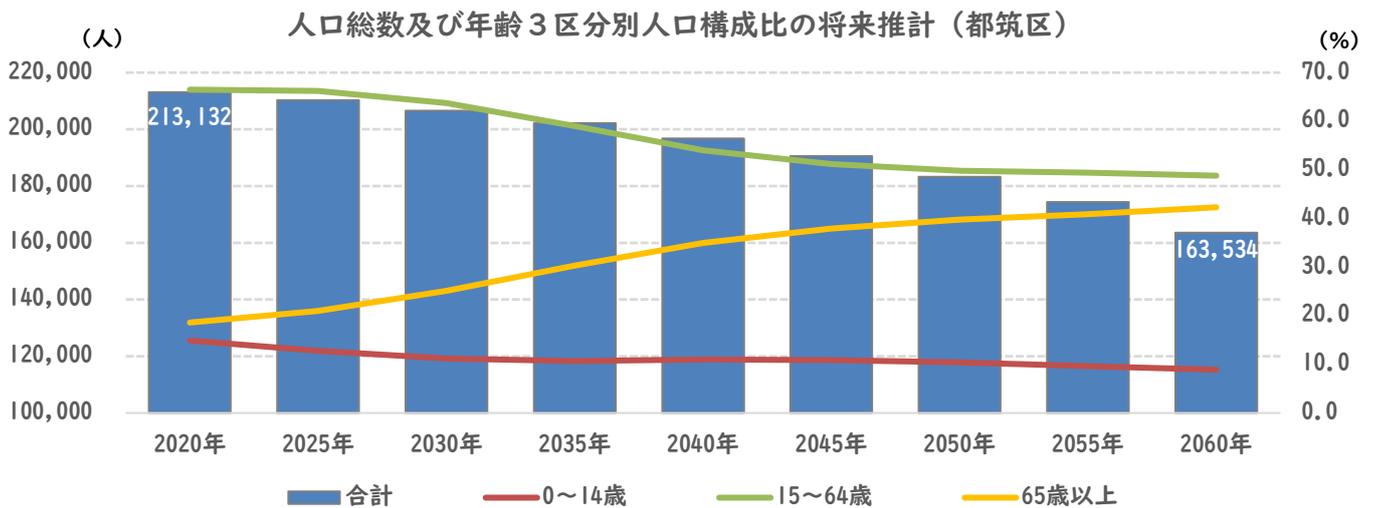


2023年度「都筑区区民意識調査」や各種福祉保健関連の「統計」、地域福祉保健活動に携わっている関係者や関係団体への「ヒアリング」、各団体の代表者や学識経験者から構成された「都筑区地域福祉保健計画推進委員会」、各地域で開催されている「地域懇談会等の意見」をもとに素案の策定を進めました。今回の区民意見募集でいただいた意見と合わせて、第5期計画を策定します。

1 統計データ

(1) 年齢3区分別人口構成比の将来推計（都筑区）

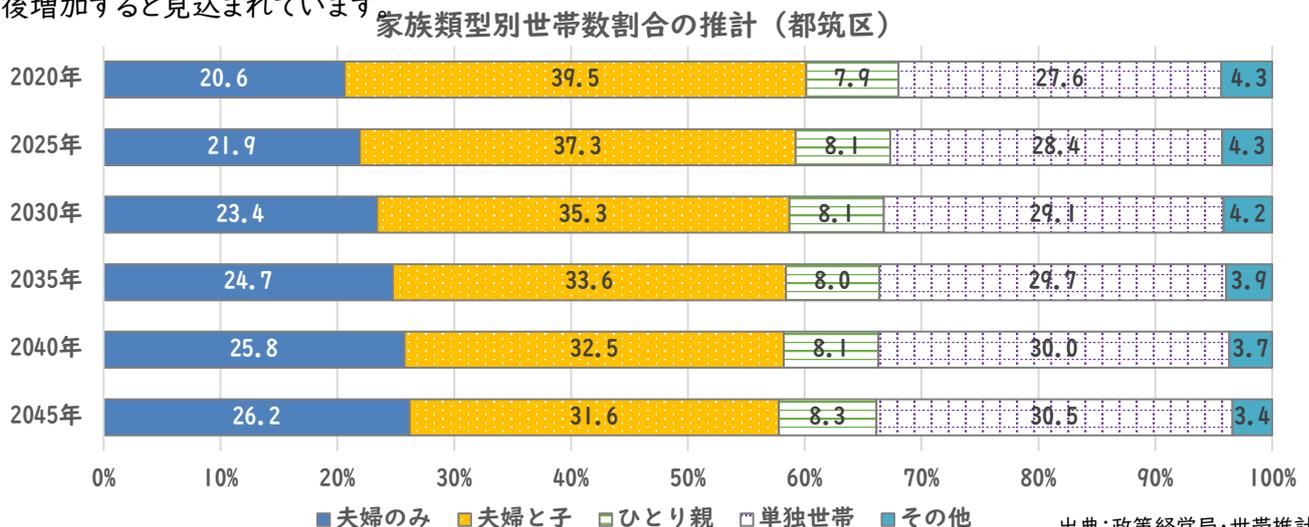
都筑区の人口は2024年にピークを迎え、それ以降減少する推計です。また、今後、高齢者人口が急激に増加すると見込まれています。



出典：政策経営局・人口推計

(2) 家族類型別世帯数の割合構成の将来推計（都筑区）

都筑区の世帯数は、2025年3月31日現在、約9万3千世帯です。推計では、「夫婦のみ」や「単独世帯」の割合が今後増加すると見込まれています。



出典：政策経営局・世帯推計

(3) 年齢区分別転入者割合（都筑区・横浜市）

転入者の割合において、「0～14歳」「30歳以上」の割合が横浜市と比較して高い状況です。「75歳以上」の転入者の割合も高く、いわゆる呼び寄せ高齢者や施設入所による転入も多いことが推測されます。

2024 年中の年齢区分別転入者割合

	0～5歳	6～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～64歳	65～74歳	75歳以上
横浜市割合	4.7	3.3	3.4	39.6	23.4	9.8	9.1	2.6	4.1
都筑区割合	7.8	4.9	2.6	29.0	25.3	11.0	9.6	3.1	6.7

※横浜市割合よりも高い箇所を赤塗り、低い箇所を青塗りしています。

出典：統計情報ポータルサイト・横浜市の人口

(4) 子ども

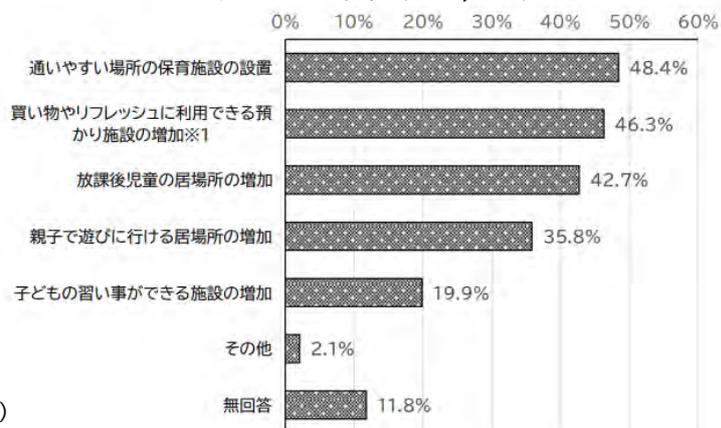
出生数、出生率（人口千対）は減少傾向で、出生率は横浜市内18区中3位です。子ども関連の居場所・施設は保育施設、預かり施設の充実の他、放課後児童の居場所へのニーズが高いことが伺えます。

出生数・出生率の推移（都筑区）



出典：統計情報ポータルサイト・横浜市統計書

子どもに関する居場所・施設について、
あるとよい取組（n=1,817）



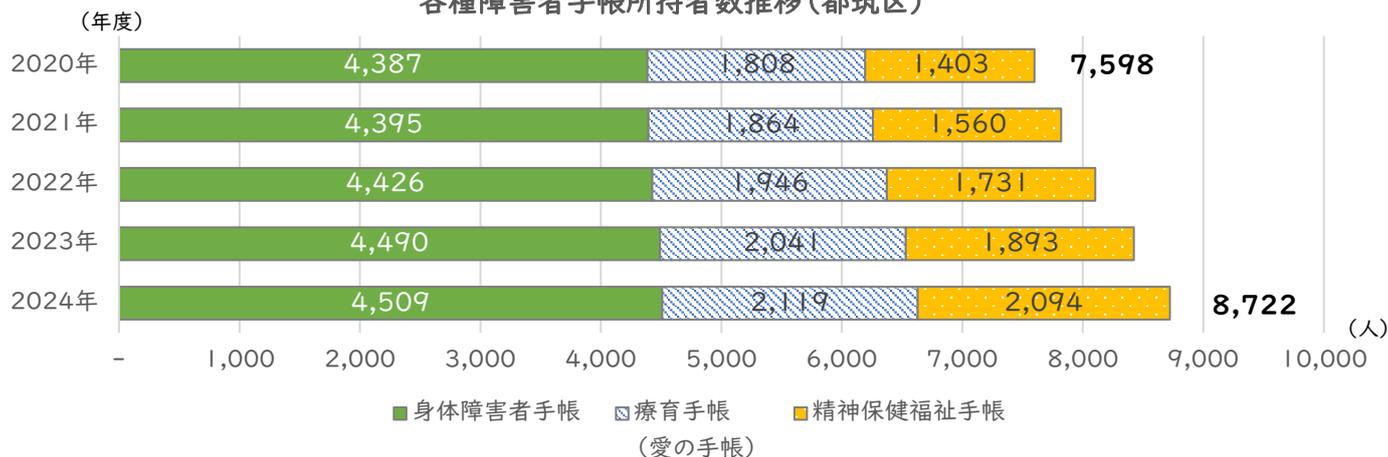
※1 買い物やリフレッシュに利用できる預かり施設の増加※1（一時保育・一時預かりなど）

出典：2023 年度都筑区民意調査

(5) 障害

各種障害者手帳の所持者数は2020年から2024年の約5年間で1,124人増加しています。

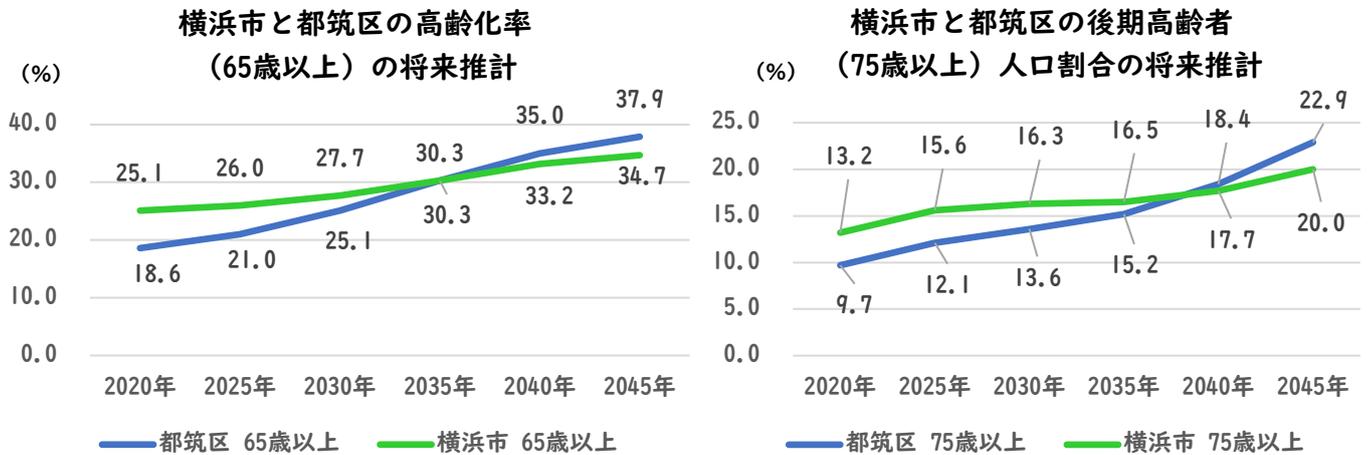
各種障害者手帳所持者数推移（都筑区）



出典：統計情報ポータルサイト・横浜市統計書

(6) 高齢者

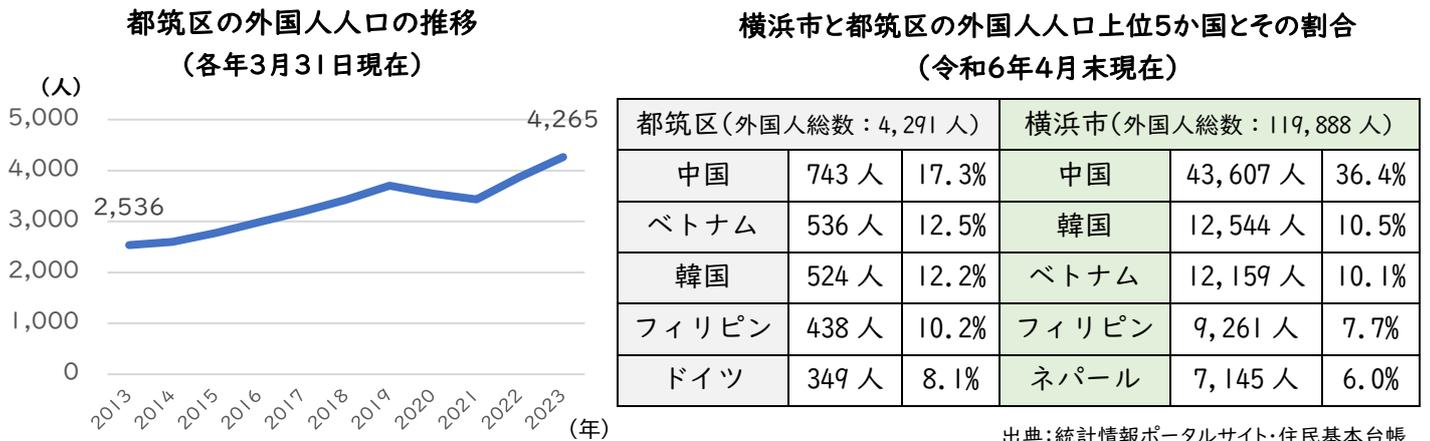
推計では、2035年（令和17年）に横浜市平均と同程度となり、その後、上回る見込みです。また、後期高齢者も急激に増えていく推計です。



出典：政策経営局・人口推計

(7) 外国人

外国人人口は新型コロナウイルスの影響で一時的に減少していましたが、現在は回復し増加傾向です。2025年4月末時点で、都筑区には80カ国以上もの国の方々が暮らしています。

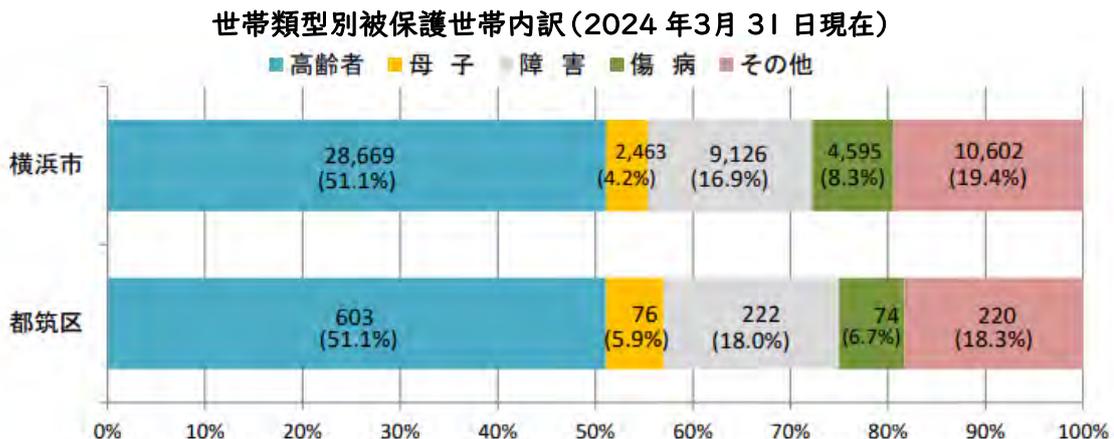


出典：統計情報ポータルサイト・住民基本台帳

出典：統計情報ポータルサイト・住民基本台帳

(8) 生活困窮・生活保護

人口1,000人あたりの被保護人員数・1,000世帯あたりの被生活保護世帯数は市内18区中18位です。世帯類型別被保護世帯の内訳は横浜市と同様に、高齢者が多い値を示しています。



出典：統計でみるつづき

(9) 健康づくり

平均自立期間(※)は男性が81.85年、女性が85.37年となっており、どちらも横浜市平均より長い結果になっています。

横浜市と都筑区の平均自立期間(2020年~2022年の平均値)と平均寿命(2022年)

	男		女	
	平均自立期間	平均寿命	平均自立期間	平均寿命
横浜市	80.00年	81.34年	83.89年	87.35年
都筑区	81.85年	82.85年	85.37年	88.33年

平均自立期間を
延ばしていこう!



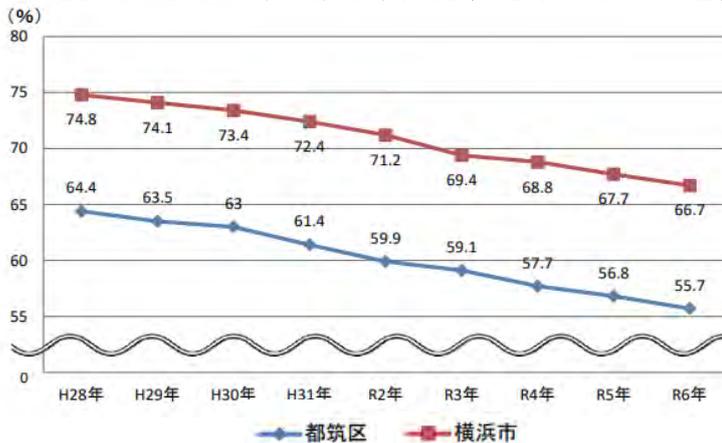
※平均自立期間:「日常生活に介護を要しない期間の平均」、このあと何年自立した生活ができるかを示したもので、健康寿命の考え方のひとつ。

出典: 健康福祉局健康推進課

(10) 隣近所とのつきあい

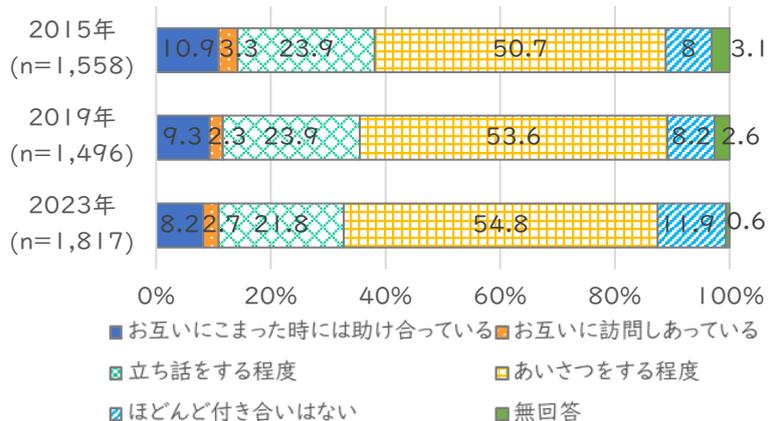
自治会・町内会の加入率は低下傾向で、日頃の近所づきあいの程度としては、「あいさつをする程度」が増加しています。

自治会町内会加入率の推移(都筑区/各年4月1日現在)



出典: 統計で見るつづき(市民局地域活動推進課)

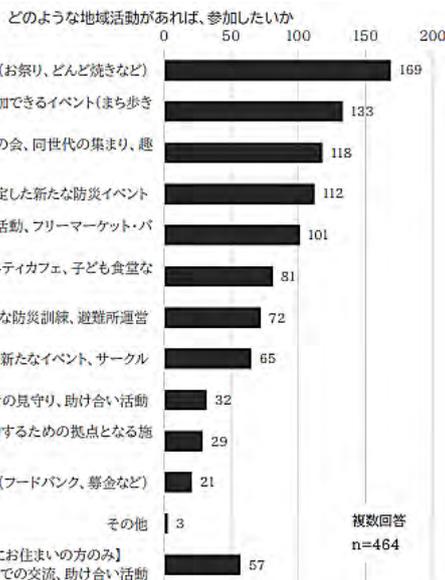
日頃、どの程度の近所づきあいをしているか



出典: 2023年度都筑区民意調査

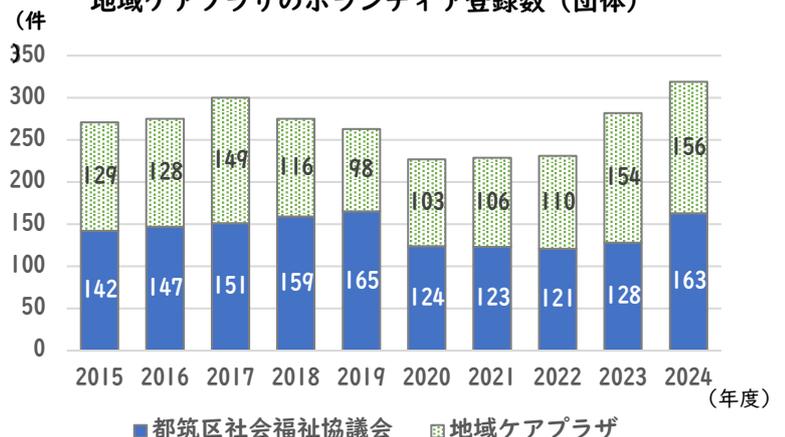
(11) 地域活動

伝統的行事に加え、「気軽に参加できるイベント」へのニーズが高いです。また、新型コロナウイルス感染症の影響で減少していたボランティア登録数は再び増加しています。



出典: 「地域活動や人とのつながりづくり」に関するアンケート調査

都筑区社会福祉協議会・
地域ケアプラザのボランティア登録数(団体)



出典: 地域ケアプラザ四半期報告
区社会福祉協議会実績報告

グラフ追加

2 関係者・関係団体へのヒアリング

2024年9月から11月に、「日々の活動を通じて感じる課題」や「2030年に目指す都筑区の姿」についてヒアリングを行いました。

民生委員・児童委員

- ・誰もが当たり前の毎日を過ごせるようにしたい。
- ・孤立させない地域にしたい。
- ・身近な関係団体（高齢、障害関係等）と連携できる仕組みが必要。

主任児童委員

- ・表に出てこない方へのアプローチが難しい。
- ・子どもを真ん中において、地域のみんなで子どもたちの課題を解決したい。
- ・子どもと高齢者が交流できる仕組みがあると良い。

青少年指導員

- ・高校生になると地域で顔が見えなくなる。地域と中学生・高校生を結ぶイベントがあったらよいと思う。
- ・青少年がお手伝いとしてではなく、「楽しく、前向きに」主体的にボランティアに参加できる機会が必要。

自立支援協議会

- ・障害のある当事者が安心して地域とつながれるよう、支援者が橋渡しできると良い。
- ・障害理解やメンタルヘルスに関して、子どもたちへの普及啓発も進めたい。
- ・見えないSOSをキャッチするために、地域の民生委員やケアプラザ等とつながり、情報共有できると良い。

地区社協分科会

- ・上手に世代交代をしていくにはどうしたらよいか。
- ・困りごとを話せる地域、困りごとを他人ごとにしらない地域にしていく。
- ・見守りが進んでいるまちになってほしい。

保健活動推進員

- ・単に健康づくりを進めるのではなく、人とのつながり（出会い、理解していく）を大切にしている。
- ・他団体とのコラボレーションにより、あらゆる年代の方に健康づくりの活動に参加してほしい。

老人クラブ

- ・どの地域にも老人クラブがあり、活性化されると良い。
- ・老人クラブの活動についてもっと知ってもらえると良い。
- ・70代前半の方に入会してほしい。

青少年

- ・自分でボランティア活動を選べるのが良かった。
- ・ボランティアでは、普段関わる機会のあまりない人と、関わるのが楽しい。
- ・横断歩道での見守り等やってみたいけど、どこに連絡したらいいかわからない。

よこはま北部ユースプラザ

- ・就労でも進学でもない居場所が求められている。
- ・無償や有償のボランティア活動先を開拓できると良い。
- ・家庭内不和、虐待、国籍、労働問題、多重債務等、複雑に課題が絡んでいる方が多い。

ボランティア分科会

- ・隣の人とのつながりが少ない。
- ・枠を限定せずに知り合える場があると良い。
- ・活動を発信していくことが大切。
- ・活動場所の確保。公共施設をもっと使いやすくしてほしい。

都筑区子育て支援センターPopola

- ・転出入が多く、核家族が多いため、頼れる人がいない。
- ・迷惑をかけたくないという思いを持っており、弱みが出せない人が多い。
- ・子どもを地域で育て、見守る意識が必要。



3 都筑区地域福祉保健計画推進委員会

(1)開催内容



(2)都筑区地域福祉保健計画推進委員

35 ページをご覧ください。

4 都筑区内15地区での話し合い(地域懇談会等)で出た意見

「第4章 第5期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」地区別計画」(26 ページ)をご覧ください。

5 区民意見募集

第5期計画の素案について意見募集を行いました。

(1)募集期間

2025 年 10 月 1 日～10 月 31 日

(2)募集方法

インターネット回答、電子メール、郵便(専用はがきや封書)、FAX

(3)素案の種類(作成した媒体)

全体版、概要版、やさしい概要版、英語版

(4)回答件数

80 名 100 件

ご協力ありがとうございました。

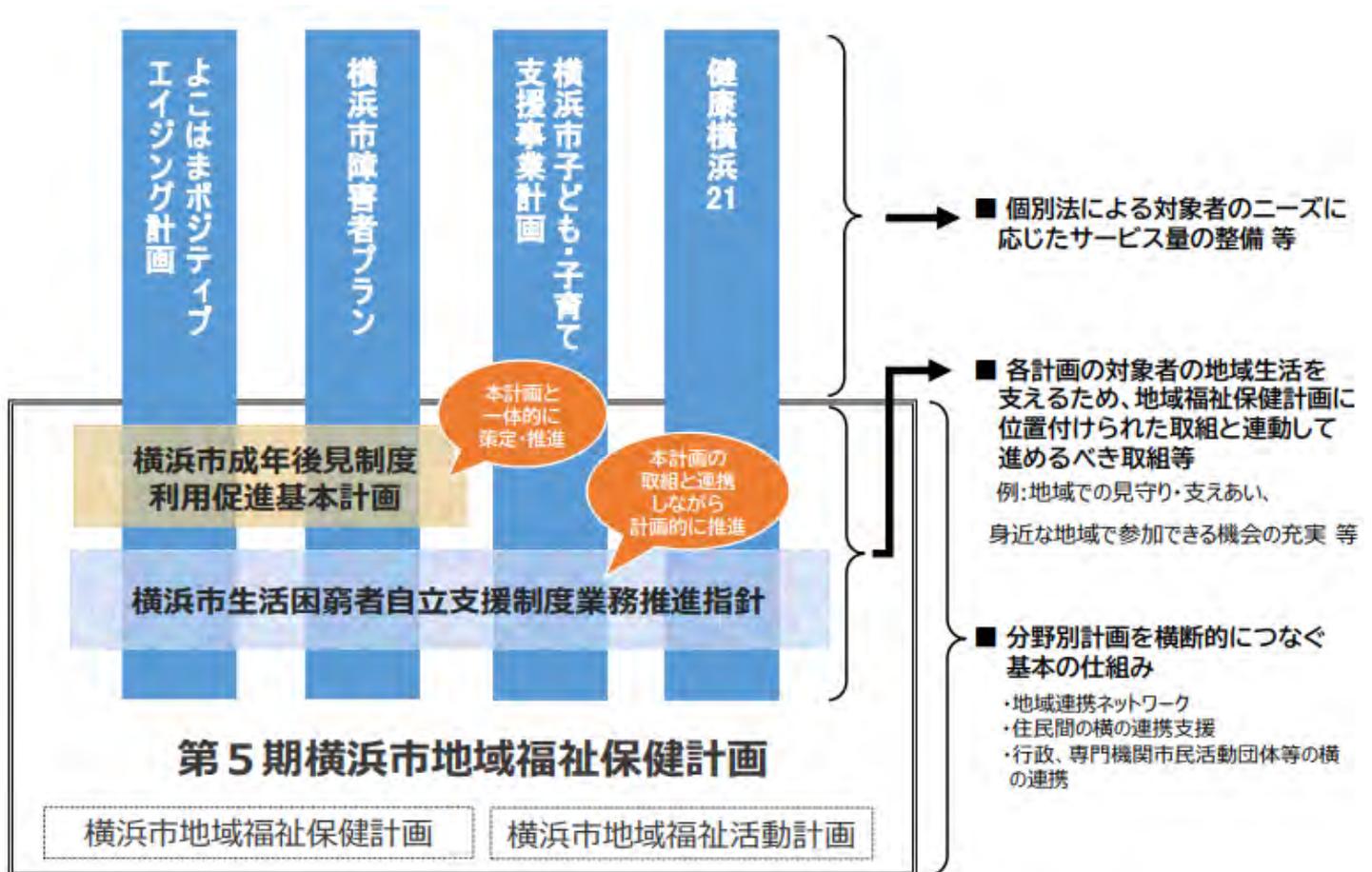


地域福祉保健計画の位置づけ

横浜市では、福祉保健の分野別の計画を策定しています。

地域福祉保健計画は、地域の視点から分野別計画に共通する理念や方針、地域における取組の方向性等を明示し、対象者全体の地域生活の充実を図ることを目指しています。

また、分野別計画で示している対象者の地域生活を支えるための事業や支援については、地域福祉保健計画と連動して取り組んでいきます。



社会福祉法第107条で「努力義務」となっている「地域福祉計画」の策定

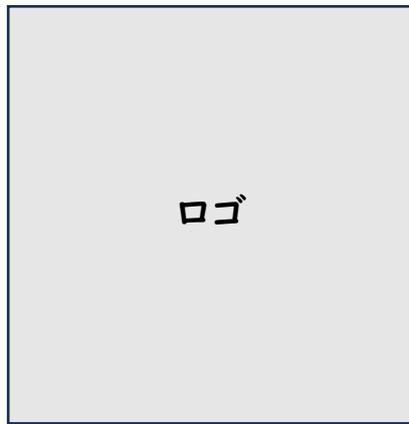
地域で暮らす人々が生活上の課題を抱えながらも、互いにつながり、支えあうことで、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともにつくっていくことのできる「地域共生社会」の実現に向けた取組が進められています。

地域共生社会の実現に向けて、2018年(平成30年)施行の改正社会福祉法により、「任意」であった地域福祉計画の策定が「努力義務」となりました。

都筑区地域福祉計画推進委員名簿(2024年度・2025年度)

※五十音順 敬称略

	委員名	所属
1	大野 和子	都筑区保健活動推進員会 会長
2	木村 博子	都筑区主任児童委員連絡会 代表
3	桑原 正盈	都筑区老人クラブ連合会 会長
4	小泉 雅二	都筑区社会福祉協議会 ボランティア・市民活動等分科会 会長
5	小林 達夫	都筑区民生委員児童委員協議会 会長
6	小林 雅子	都筑区医師会 理事
7	坂田 信子	都筑区障害児・者福祉団体連絡協議会 会長
8	佐藤 洋子	NPO 法人こども応援ネットワーク 理事長(都筑区子育て支援センター Popola 運営法人)
9	志田 政明	都筑区青少年指導員連絡協議会 会長
10	高橋 美都子	都筑区小学校長会地域福祉保健関係担当 横浜市立茅ヶ崎小学校 校長
11	名和田 是彦	法政大学法学部 教授(学識経験者)
12	林田 育美	都筑多文化・青少年交流プラザ(つづき MY プラザ) 館長
13	堀内 哲也	つづき地域活動ホームくさぶえ 所長
14	堀越 淳子	都筑区食生活等改善推進員会 会長
15	増田 友昭 (2024 年度)	都筑区中学校長会地域福祉保健関係担当 横浜市立中川中学校 校長
	小嶋 貴之 (2025 年度)	
16	宮川 智行 (2024 年度)	都筑区歯科医師会 会長
	河野 伸二郎 (2025 年度)	
17	村田 輝雄	都筑区社会福祉協議会 会長
18	吉野 富雄	都筑区連合町内会自治会 会長



<問い合わせ先>

都筑区役所 福祉保健課事業企画担当

電話:045-948-2344 FAX:045-948-2354

メール:tz-tifuku@city.yokohama.lg.jp

社会福祉法人 横浜市都筑区社会福祉協議会

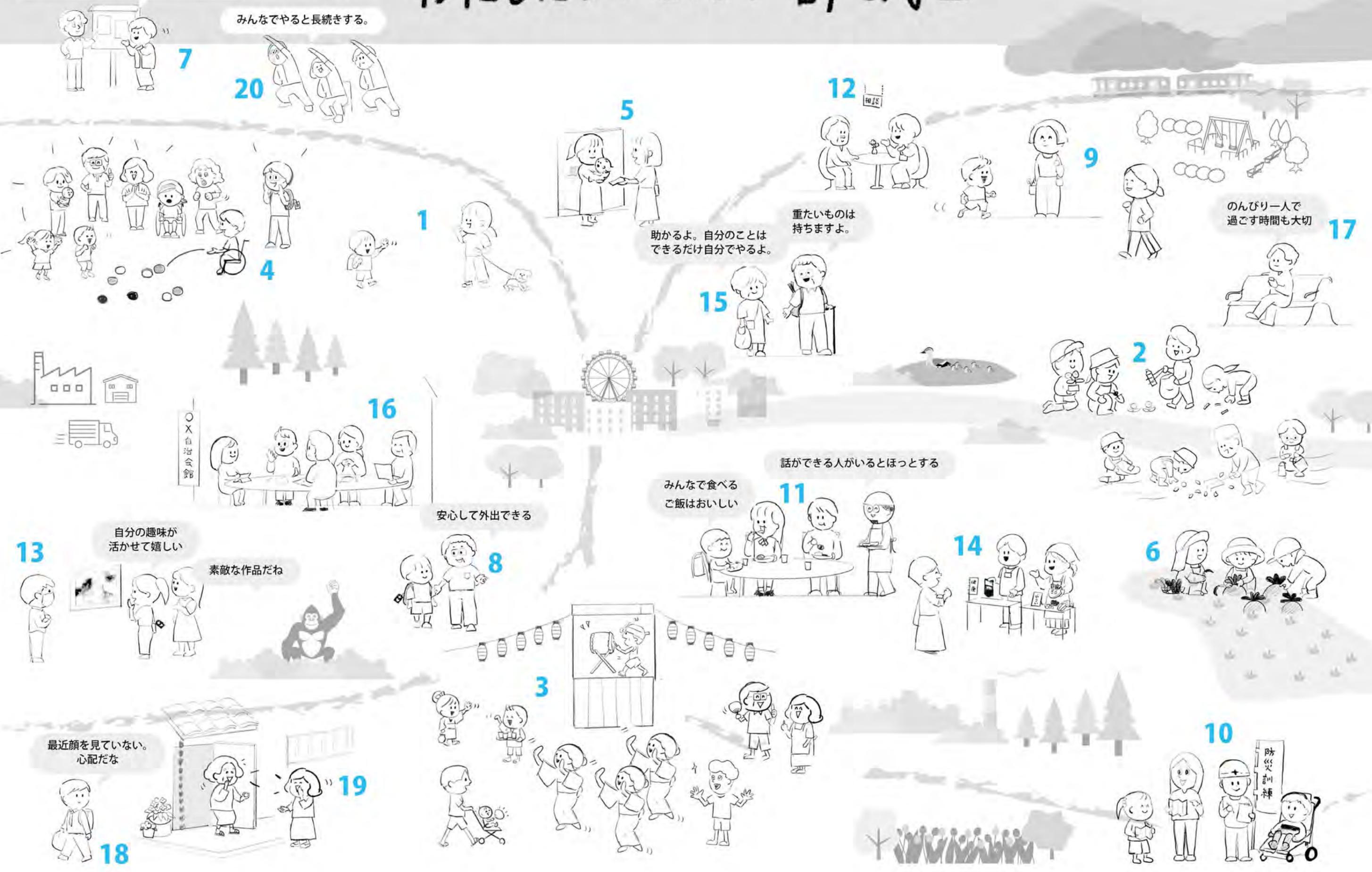
電話:045-943-4058 FAX:045-943-1863

メール:info@tuzuki-shakyo.jp

わたしたちの目指す都筑区

やさしい言葉だとみんなが分かっているね

みんなで作ると長続きする。



7

20

5

12

9

17

4

1

15

2

16

11

14

6

13

8

3

10

19

18

自分の趣味が
活かせて嬉しい

素敵な作品だね

安心して外出できる

みんなで食べる
ご飯はおいしい

話ができる人がいるとほっとする

助かるよ。自分のことは
できるだけ自分でやるよ。

重たいものは
持ちますよ。

のんびり一人で
過ごす時間も大切

最近顔を見ていない。
心配だな

第30回 都筑区社会福祉大会

令和8年2月19日（木）

14:00～15:00

都筑公会堂

参加自由 申込不要です

皆さまの
ご来場を
お待ちしております

表彰状贈呈



地域の中で社会福祉の発展に貢献
した個人や団体を表彰し、福祉活
動の普及・推進を図る大会です。

地域の福祉活動を知る機会としてどなたでもご参加いただけます

【主催】
都筑区
横浜市都筑区社会福祉協議会

【お問い合わせ】
横浜市都筑区社会福祉協議会 ☎ 045-943-4058

同日開催 第5期都筑区地域福祉保健計画「つづきあい」完成報告会

日時：令和8年2月19日（木）15:00～16:00 *社会福祉大会の後

会場：都筑公会堂

内容：第5期「つづきあい」区計画・地区別計画のご紹介他

